

第8章 「銚子・ものがたり」による銚子資産の総合的な保存・活用

1. 「銚子・ものがたり」の設定

銚子資産の保存・活用の方針である「持続可能な文化財保護の仕組みの構築」の目標である「知れば知るほど好きになる！伝えよう。銚子。」を達成するために、分かりやすく本市の歴史文化の特徴を伝える「ものがたり」を設定しました。この「ものがたり」は、「指針」で定める「関連文化財群」に相当します。

「銚子・ものがたり」設定の考え方

- ◇歴史的に共通項がある
- ◇ストーリー性がある（群として把握することにより価値が明確になる）
- ◇多種多様な銚子資産を含む
- ◇地域の歴史文化、伝統をよく表している
- ◇地域住民が理解しやすく、誇りに思う内容とする

「ものがたり」を構成する銚子資産は、地域社会の中に深く根づいてきたもので、人々の暮らしと密接な関連を持ってきましたが、生活環境や経済活動の変化に伴い双方の接点が減少しつつあります。

また、歴文構想を策定する際に実施した町内会を対象としたアンケート調査では、「文化財等は博物館などでしか見ることが出来ない」、「専門的な知識がないと関われない特別な存在である」などの意見が多数上がりました。私たちが暮らす地域の中にもかけがえのない文化財があることに気づき、身近な歴史や文化、そして文化財を地域総がかりで保護していくためには、文化財の保護に携わる人々がその価値を分かりやすく伝え、身近な存在と感ずることができるよう工夫を施し、自らが守り伝えていこうとする意識を醸成していく必要があります。この「ものがたり」が地域と文化財をつなぐ役割を担うと考えています。

そのためには、常に「ものがたり」に磨きをかけていく努力が必要で、「所在調査」や「基本調査」を実施することで、個々の銚子資産の価値を把握しながら、新たな「ものがたり」の設定や既存の関連文化財の組み換えによる多彩なストーリー展開を常に可能にし、他の「ものがたり」との連結や共有によるストーリー展開が柔軟に行えるように努めていきます。

2. 8つの「銚子・ものがたり」

本市の歴史文化の特徴である「人・モノ・文化が会う。岬に生きる。」という地理的特徴や歴史的連続性などの共通のテーマに基づく銚子資産及びその周辺環境を含めた価値づけを歴文構想策定時に行い、7つの「銚子・歴史ものがたり」を設定しました。今回、地域計画作成にあたりその内容を一部見直し、再整理し、さらに2016年（平成28）4月25日に千葉県と佐倉市、成田市、香取市の3市とともに認定を受けた「日本遺産 北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み～百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並み群～」の中の本市に関連する部

分を「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み～港町の銚子～」としてまとめ、本地域計画では8つの「ものがたり」を設定しました。



図 35 8つの「銚子・ものがたり」

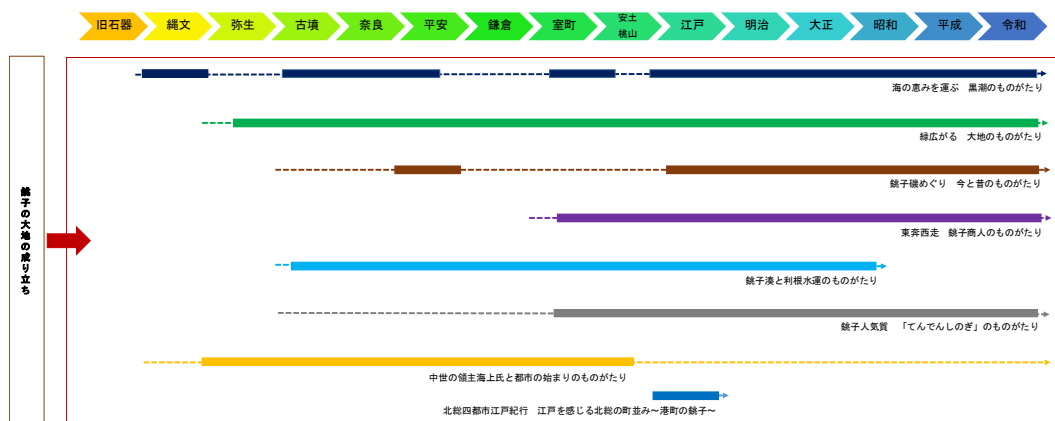


図 36 各「銚子・ものがたり」の時代構成

3. 「銚子・ものがたり」の基本的な保存・活用の方針

設定した8つの「ものがたり」の保存・活用の基本的な方針は、以下のとおりです。

①「銚子・ものがたり」に基づく銚子資産の把握と調査・研究

「ものがたり」のテーマやストーリーの充実を図るために、継続的な銚子資産の把握、調査研究に取り組んでいきます。関連する銚子資産の把握の際、地域住民が参加できる仕組みを作り、地域全体で総合的な把握に努め、新たに「ものがたり」に関連する銚子資産が確認できた場合は、内容の見直し等に柔軟に対応していきます。

②「銚子・ものがたり」を構成する銚子資産の保護措置

「ものがたり」を構成する銚子資産の中で、特に重要な文化財については価値を評価するために「基本調査」を行い、指定や登録等の措置を講じて適正な保護に努めます。

③銚子資産の磨き上げ

史跡や歴史的建造物に必要な整備を行い、「ものがたり」を伝える銚子資産の価値や魅力を分かりやすく伝えていきます。整備にあたり銚子資産の価値を損ねることのないように学識者の意見を聞きながら取り組みます。

④「群」と「面」でとらえる銚子資産の保存と活用

従来のような「個」を単位とした銚子資産の保存と活用を行うだけではなく、「ものがたり」のテーマやストーリーに基づく「群」としての価値や特色の顕在化を意識しながら取り組みます。

また、銚子資産を取り巻く周辺環境も含めた「面」としての価値を把握することにより、歴史文化観光を推進することも可能となります。単に銚子資産だけではなく、文化施設や観光施設との連携を図りながら「まち歩きルート」を設定し、周遊に必要な誘導標や説明板などの整備を進めるとともに、イベント情報をはじめとする四季折々の情報提供により、歴史文化に基づく「銚子ブランド」としての総合的な価値の向上につなげていきます。

⑤「銚子・ものがたり」を活かした情報発信

「ものがたり」とともにそれを伝える銚子資産や「ものがたり」をテーマとした「まち歩きルート」などの情報を魅力的にわかりやすく伝えるため、パンフレットやホームページを活用し、情報を発信していきます。

⑥「銚子・ものがたり」を支える体制づくり

地域住民や文化財保護団体を始めとする市民団体の協力を得ながら、「ものがたり」を活かした事業を推進する役割を担う「協議会」の組織や運営体制の強化を図りつつ、文化財保護の目標を共有し、計画的に事業を実施します。

また、地域住民が地域に所在する「銚子資産」を守り伝える活動を新たに実施するための組織作りを促し、支援していきます。

⑦ふるさと学習プログラムの構築

市内在住の子どもたちを対象とした地域の歴史文化を伝える「ふるさと学習」のプログラムを①～⑥の事業と連携してより充実したものにします。また、将来、他地域の子どもたちを対象とした「教育旅行」のプログラムとしての活用も視野に入れながら、各種事業を展開していきます。

4. 「銚子・ものがたり」と保存・活用のための措置

銚子・ものがたり 1 : 海の恵みを運ぶ、黒潮のものがたり

銚子沖は黒潮と親潮が交わり、さらに利根川から栄養豊富な淡水が流れ込む全国屈指の好漁場です。現在、銚子漁港は9年連続水揚量日本一を記録し、沖合の大型漁船から沿岸の小型漁船による漁業が盛んに行われています。また、銚子漁港を中心に水産物流基地や加工拠点があり、200種類を超える魚介類が水揚げされています。県内はもとより首都圏や全国各地に新鮮な水産物を供給するための運送業や漁業資機材の製造販売などの関連産業も多く、水産業は銚子の基幹産業です。

銚子の漁業の歴史は、縄文時代まで遡ることができます。縄文時代前期から中期を中心とする栗島台遺跡からは、漁に使う網におもり 錘として装着した「土器片錘」や「丸木船」などが見つかっています。また、縄文時代後期から晩期が中心の余山貝塚では、シカの角や骨で作られた「釣針」「ヤス」「モリ」が出土し、貝塚からはスズキやクロダイなどをはじめ大型のクジラやイルカなどの骨も確認され、これらの漁労具を使って捕獲していたことがわかっています。当時、余山貝塚周辺は、対岸の茨城県神栖市の砂州が今ほど発達せず、外洋に近く、古鬼怒湾が広がっていました。海に面し、海の幸を求めて、縄文人は果敢に海に立ち向かっていきました。これらの遺跡の出土品から漁業の町としての第一歩が縄文時代から始まったことが読み取れます。

約1,000年前に「香取の海」と呼ばれる内海が広がり、銚子を含めた香取の海の南岸の地域は、大和朝廷にとって蝦夷平定に向かうための交通の要所となりました。また、この内海での漁業権を掌握していた香取神宮や鹿島神宮は強大な力を持ち、沿岸の住民が漁をした漁獲物の一部を税として納めることで、漁業活動を保証していました。

1374年（応安7）の「海夫注文」には、「飯沼くわうやの津」「かきねの津」「のじりの津」という「海夫」と呼ばれる漁夫の居住地の場所が記され、海を生業とする人々がいたことを伝えています。1573年（天正1）、野尻と高田の商人の間で「網代」あじろ（漁場）をめぐる争いが起こり、在地領主であった海上氏の裁許文書さいきよが残されています。

江戸時代に入り、紀州方面からの漁民が集団で黒潮の流れにのってやって来て、銚子沖で漁を始め、漁獲が上がると紀州等へ戻っていきました。しかし、旅網で漁をしていた人たちがしだいに銚子に居住し、飯貝根や外川、長崎等に漁場を開き、漁業集落を築いていきました。紀州からやってきた崎山治郎右衛門は、銚子に移住した当初は飯貝根に住んでいましたが、その後、外川へ移り、碁盤目状の街区を造り、紀州から大勢の人を呼び寄せ、「外川千軒大繁盛」と呼ばれるほどの漁業の町として発展させました。外川は銚子漁港が整備されるまでの間は、銚子の漁業の中心地で、「銚子漁業発祥地外川港 開祖 崎山治郎右衛門碑」という記念碑が大杉神社境内に建っています。

地元の草分け百姓であり、銚子で初めて醤油醸造に取り組んだ田中家の5代玄蕃いせぢがうらは伊勢地浦（「伊勢路」や「伊勢地ヶ浦」という表記も使用されている）での築港など漁業の分野でも力を注ぎました。

大量に水揚げされたイワシは、「干鰯」や「鰯粕」の材料として利用され、浜辺に干鰯場が広がっていました。これらの肥料は「金肥」として利根水運により江戸へ運ばれた後、関西地方へ送られ、木綿栽培には欠かせない肥料として大変需要がありました。その後、「干鰯」や「鰯粕」は化学肥料に代われ、第二次世界大戦の開始に伴い食料品の加工へ移行しました。戦後も缶詰等の食料加工品の製造が中心で、サンマやサバを原料とした加工製品が主流となっています。

江戸時代以降、漁家は漁業と水産加工、漁業資機材の製造などを一括して行ってきましたが、漁船の能力の向上や冷凍冷蔵庫の普及、水産加工の原料となる魚の供給先の拡大等により年間を通じて工場の稼働が可能となり、それぞれが産業として独立することができるようになったため、分業化されていきました。

『板子一枚下は地獄、落ちれば死につながる恐ろしい海』といわれ、漁業は危険な仕事でした。それ故、漁業関係者は海にまつわる信仰を大切にしています。利根川の河口は、日本の三大海難所の一つといわれており、海難事故が多く、河口を見下ろす「千人塚」は水難で命を落とした人々の慰霊の場所で、今でも毎年一回「川施餓鬼」の法要が営まれています。

利根川河口の高台にあり、出船入船を望むことができる川口神社は、漁業従事者から篤く信仰されています。漁師たちは未曾有の豊漁となった1864年（元治1）にその感謝と船の安全を祈るため漁業の情景が詠みこまれた「大漁節」を作り、奉納しました。一年の最初の出漁の際に一年間の漁の無事と豊漁を祈る儀式である「漕出」や旧暦6月15日には「大潮まつり」が執り行われます。

また、境内には、たくさんの「亀墓」があります。亀が漁網にかかると、とっておきの酒をふるまい海に帰し、万一釣針にかかって死んだ時は自分の祖先よりも立派な墓を作り、敬うという習わしがあります。この「亀墓」は妙福寺や長崎、恵比須山等にもあり、川口神社には「鯨墓」もあります。

豊かな恵みをもたらし、危険な海へ挑んでいく男たちを送り出す女性たちは、無事に海から陸へ戻り、豊漁を願うために「明神講」や「初午稲荷講」として祈りを捧げました。江戸時代初期に利根川をはさんだ旧波崎町（現神栖市）で発祥した「波崎縮」の技術が江戸中期に銚子へ伝わり、縮を織る機屋が40軒以上を数え、「銚子縮」として一大産業をなし、江戸の町へ運ばれ、漁師の妻たちが産業を支えました。また、長崎には海藻類を採取する根付漁業を支えた海女がいました。1897年（明治30）には、「琴柱角股（コトジツノマタ）」という海藻を水産博覧会に出品し、昭和20年代には代用醤油の原料となったカジメを採取し、昭和30年から昭和45年頃最盛期を迎えました。

明治に入り、産業の近代化や物流の輸送手段が鉄道へと変わっていく中で、本市では1898年（明治31）に東京まで運航する総武鉄道が開通しました。そこで、利根水運の役割が減少し、商港であった銚子湊を漁港へと整備することを決定しました。しかし、銚子湊を漁港として活用し、発展させていくためには、日本三大海難所であった利根川河口の整備をする必要があり、非常に困難な事業となりました。しかし、濱口吉兵衛らの努力により、漁港の近代化に成功し、1960年（昭和35）に特定第3種漁港の指定、1963年（昭和38）から第3次漁港整備長期計画が始まり、近年、水産物流の拠点として衛生管理や品質の向上を図り、第1卸売市場を「高度衛生管理型市場」として整備するなど銚子漁港の機能強化を進めています。

「海の恵みを運ぶ、黒潮のものがたり」を伝える銚子資産

建造物：川口神社本殿・和田不動堂・渡海神社本殿・名洗不動堂

旧西廣家住宅（治郎吉）主屋・缶詰工場・北倉・南倉・煉瓦塀（いずれも国登録）

犬吠埼灯台（国登録）・旧犬吠埼霧信号霧笛舎（国登録）

古文書：滑川家文書・宮内家文書・西廣家文書・銚子漁港整備計画関係資料・木国会移住碑及び

木国会史・崎山治郎右衛門紀徳碑・大納屋おさつ供養塔・濱口吉兵衛銅像

考古資料：余山貝塚出土の骨角器・栗島台遺跡及び余山貝塚出土遺物

無形民俗：銚子縮（県指定無形）・大漁節・大漁旗製作（小澤染工場・額賀屋染工場）

有形民俗：漁業の道具・大漁旗・万祝・高瀬船及び船舶関係の道具・絵馬

記念物：古銅輝石安山岩

信仰：川口神社・和田不動・銚子神社・御嶽神社・伊勢大神宮・西宮神社・渡海神社・大杉神社

亀墓・鯨墓・漕出・大潮まつり・明神講・初午稻荷講・御太刀祭・亀の子様の信仰

大地の成り立ち：地形・海流・気候・古銅輝石安山岩

町並み：外川の町並み

人物：崎山治郎右衛門・北川治郎右衛門・田中玄蕃・濱口吉兵衛・今井健彦・小野田周斎

施設：鯨の解体場・銚子無線・外川漁港・製氷工場・水産加工関連工場・外川ミニ郷土資料館

産業：干鰯及び鰯粕関連資料・漁網・水産加工業・製氷

食：のべのり（海藻）・かいそう・頬刺し・イワシ料理・サバ料理・伊達巻・つみれ団子

その他：山立・漁法・天気に関係する伝承・渡辺學作日本画



余山貝塚出土骨角器



大漁節



外川の町並み



コトジツノマタ（海藻・食用）

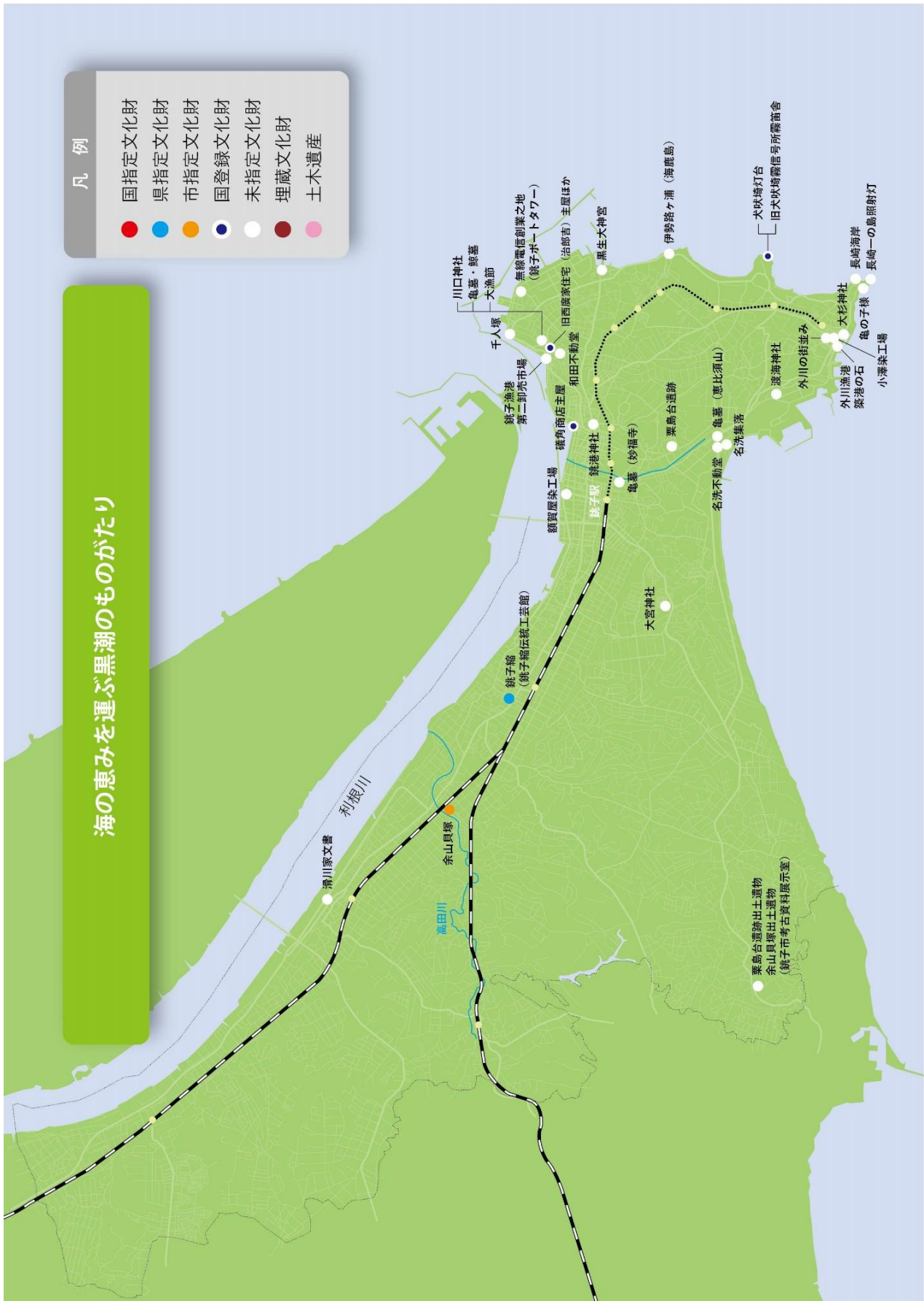


大潮まつり



亀墓（川口神社）

「海の恵みを運ぶ、黒潮のものがたり」を伝える代表的な銚子資産の分布



【守りたい・伝えたい価値】

○日本有数の港町の歴史を語る銚子資産

いつの時代も市域の三方が水域に囲まれてきたことで、縄文時代から海の恵みを得るための活動が始まりました。今では日本一の水揚げ量を誇る港町へと発展し、漁業や水産業の歴史を伝える多種多様な銚子資産が残っています。

・漁業の歴史の始まりを伝える余山貝塚

縄文時代の集落跡が確認されている粟島台遺跡や余山貝塚からは、縄文人と海との関わりを示す出土品が見つっています。特に、余山貝塚からはシカの角や骨などで作った骨角器である釣針やヤス、モリが出土するとともに、貝塚にはクロダイなどの骨が検出されています。縄文時代からの海の恵みを生かした暮らしを伝えるとともに、漁業の歴史の始まりが読み取れます。

・銚子漁業を象徴する町－飯貝根（川口）・外川

関西方面から来た漁師たちが、飯貝根や外川等に漁場を開き、漁業集落を形成して発展してきました。各地域には、江戸時代に形成された漁業集落の面影を伝える街区や通り（道路・街道）、江戸末期から明治以降に建てられた歴史的建造物も残っています。

・日本有数の漁港へと転換を果たした人々

商港であった銚子湊を近代的な漁港へと改修する計画は非常に険しい道のりでした。そのため濱口吉兵衛をはじめ多くの人々の努力の積み重ねが事業を成し遂げ、その歴史を伝えています。

・漁業を支えた祈りの風習

漁業関係者は、海に対して畏敬の念を持ち、海からの恵みや安全に漁ができることを常に感謝し、その想いはいつの時代も変わることはありません。海を見下ろす高台に鎮座する漁師たちの信仰を集める川口神社や和田不動堂などは漁業関係者の精神的な支えとなり、漕出や大潮まつりなどの祭事が継承されてきました。

・漁業とともに歩んだ産業

江戸時代から本格的に始まった漁業は、関連する産業の多様な技術により支えられてきました。当初は、漁と干鰯生産等の水産加工、造船など漁業を支える一連の産業を漁家が兼業的に実施してきましたが、近代化により水産加工や漁具商、造船業などの事業を分業させ、現在の水産関連産業を築き、漁業とともに発展してきた歴史があります。

・漁師の暮らしを支えた技術と技

不安定な漁師たちの暮らしを支えてきた「銚子縮」や籐製品などの製造業の担い手は減少し、市内に僅かにそれぞれ1軒のみとなりました。陸で待つ家族に大漁であったことを伝えるために掲げる「銚子萬祝式大漁旗」^{ちようし まいわいしきたいりようぼた}を製作している染工場は2軒あります。生活様式の変化に伴い、これらの技術や技を継承することが難しい時代ではありますが、歴史的かつ文化的な価値を伝え続けていなくてはなりません。

【守り・伝えるための課題】

○水産業を取り巻く環境

水産業は本市の基幹産業であり、今後も更なる発展を遂げていく必要があります。しかし、漁業従事者の高齢化や若い世代の担い手不足に伴い、銚子漁港に船籍を持つ地元の漁船が減少しつつあ

ります。これは、本市で漁業に携わる人材の減少ということであり、これまで受け継がれてきた漁業に関連する技や技術、知恵、風習などを伝えていくことが難しくなっていることにつながっています。また、水産業に関連する建物等の工作物も取り壊されつつあり、空き地が目立ってきています。

○「銚子ブランド」を支える歴史文化の共有

水産業を基幹産業とする都市が全国にいくつもある中で、「銚子」が選ばれ続けていくためには、漁業の町として長年歩んできた歴史文化に裏付けされた地域の価値を再認識し、「銚子ブランド」を向上させ、他地域との差別化を図っていくことが大切です。そのためにも、「ものがたり」を通じて水産業に携わる人々をはじめ多くの市民に歴史文化の大切さを広く周知していく必要があります。

○技術の継承

水産業の近代化に伴い、それまで漁家で家内工業的に行われてきた多様な産業が分業化されました。例えば、大正時代を境に生産が途絶えた「銚子縮」は、戦後、苦心の末に常世田真次郎氏が再興し、現在、常世田真壺郎氏が唯一の保持者※です。漁師たちの暮らしを支えてきた伝統的な産業の継承が難しい状況におかれています。

※ 千葉県指定無形文化財「銚子縮」の文化財保持者として認定されています。

【守り・伝えるための方針】

○余山貝塚の保存・活用

1967年（昭和42）から「余山貝塚」の一部を市指定史跡として保護しています。平成26（2014）年度から令和2（2020）年度の7カ年で実施した発掘調査の成果に基づき、指定範囲の見直しを行い、「美化の会」と連携して適正な保護に努めます。また、「ふるさと学習」での活用の充実を図るために必要な史跡整備を推進していきます。

○漁業の町の発展を伝える銚子資産の保存・活用

これまでの調査成果に基づき、市域内の各漁業集落の銚子資産リストを作成し、集落ごとの特徴をまとめていきます。特に、飯貝根地区を優先的に進め、地域住民とともに飯貝根地区に残る「漁業の町・銚子」の特徴を分かりやすく伝える銚子資産をリスト化し、それぞれの特性に応じた保存と活用を行います。また、地区内の近代以降に建てられた歴史的建造物の保存と活用に向け、所有者への理解と協力を求め、保護するために必要な組織作りを検討していきます。

○外川の町並みを継承するための方策の検討

銚子漁業の発祥の地である外川の町並みは歴史的及び文化的な価値を有し、本市の観光スポットとしても人気がある場所です。この町並みを保護していくためには、地域住民の理解と協力が不可欠であり、関係者と連携を取りながら町並みの保存（保全）・活用について議論する場を作り、その保存（保全）について検討していきます。

○漁業と結びついた暮らしの継承と記録保存

漁業関係者に継承されている信仰や祭り、講の現状を把握し、継承のための課題を整理し、支援の在り方を関係者とともに検討していきます。また、鳴り物保存会や銚子神輿連合会などの協力を得ながら、学校教育の中で大漁節をはじめとする郷土芸能の継承に取り組むことができる仕組みを

作ります。

時代とともに近代化し、発展を続けてきた漁業を始めとする水産業を支えてきた人々の暮らしや祭事、風習などの記録保存も推進していきます。

○伝統産業の技術の継承

社会や生活様式の変化等に伴い需要が減少する中での技術の継承は非常に難しい時代ですが、その一方では国内の伝統産業や伝統工芸品が国内外から注目を浴びている時代でもあります。伝統産業が若いデザイナーたちとのコラボレーションにより新しいモノづくりへの視点が加えられています。歴史的価値を発信しつつ、継承に向けての新たな価値を柔軟に見い出すきっかけ作りを推進していきます。

○景観復元による活用

地域住民を巻き込みながら「所在調査」を実施し、地域への関心を高めつつ、昔の写真、絵葉書、古地図なども収集していきます。それらを活用し、地域の景観復元を行い、わかりやすく歴史文化を伝え、その価値の継承に努めていきます。

○日本遺産をはじめとする関連事業と関係団体との連携

2016年（平成28）3月に銚子市水産総合戦略策定協議会が「銚子市水産業総合戦略」を策定し、2019年（平成31）3月までの間に「水産都市銚子」観光ルート創造事業の一環として、「漁師町外川」と「銚子みなと町」に新たな観光導線を設定し、各種イベントを定期的に行いながら観光誘致につなげる取り組みを実施してきました。また、銚子観光DMO推進事業では外川町の有志と「外川ふんわり会」を結成し、「外川まち歩きマップ」を作成しました。このように、各団体が「漁業」をテーマとして地域振興や観光振興につなげていく取り組みを実施していることは、「漁業」が本市の観光資源として有する価値の高さを表しています。

今後は、各団体が実施してきた取り組みの継承と連携により、文化庁から認定を受けた日本遺産「北総四都市江戸紀行」を核として、構成文化財に対する必要な整備を進め、歴史文化観光を展開できる体制を構築することにより、事業の充実を目指していきます。

【守り・伝え・活かすための措置】

守り・伝え・活かすための必要な措置	財源	主体者	事業計画期間			
			短期 3年	中期 5年	長期 10年	
①市指定史跡「余山貝塚」の保存と活用		事業番号：11・24～26・29				
- 指定範囲を拡張して、適正に保護する。 - 貝層の剥ぎ取りや出土品を活用し、分かりやすく貝塚の価値を伝える。	市費 文化庁補助金 県費補助金	銚子市				
②漁業の町の発展を伝える銚子資産の保存と活用		事業番号：1～5・9				
- 各町内会ごとに実施してきた「銚子資産所在調査」成果から、「ものがたり」用の銚子資産リストを作成する。 - リストにより把握の現状を確認し、再調査や情報収集を行う。	市費	銚子市				
「ものがたり」の銚子資産リストから飯貝根地区の情報を整理する。 - 把握の状況から再調査や情報収集を行う。 - 把握した「銚子資産」の保存と活用の方法を整理し、必要に応じて「文化財基本調査」を実施し、保護措置を講じる。	市費	銚子市				
飯貝根地区内の歴史的建造物については、取り壊しなどが発生する恐れがあるため、早急に把握し、保護措置の必要な建造物は「文化財基本調査」を実施し、保護措置を講じていく。						
優先的に飯貝根地区の調査を進めるが、市域内の漁業集落の把握と現状の確認、特徴を把握するための情報収集を行う。						
③外川の町並みを継承するための方策の検討		事業番号：1～5・9・23				
「ものがたり」の銚子資産リストから外川地区の情報を整理する。 - 把握の状況から再調査や情報収集を行う。その際、地域住民が考える地域の将来像や地域の観光利用等に関する情報も併せて収集する。 - 把握した「銚子資産」の保存と活用の方法を整理し、必要に応じて「文化財基本調査」を実施し、保護措置を講じる。	市費 他省庁補助金 民間団体助成金	銚子市				
千葉県建築士会銚子支部をはじめとする関係団体と建造物調査の成果を共有し、町並みの保存と活用に関する方針案を作成し、検討していく。						
④水産業で生きる暮らしの継承と記録保存		事業番号：1～5・9・16				
「銚子資産所在調査」で把握した水産業に関連する生活様式や祭事、風習等をリスト化する。 - 関連する団体からそれぞれの現状と課題を聴取し、次世代への継承の方針を検討する。 - 記録保存が必要な銚子資産をリスト化し、事業を実施する。	市費 文化庁補助金 民間団体助成金	銚子市 協議会				
⑤伝統産業の技術の継承		事業番号：6・16				
水産業の不安定な生活を支える中で生まれた伝統産業の歴史、価値、技術の継承について検討する。	市費 文化庁補助金 他省庁補助金 民間団体助成金	銚子市 協議会				
⑥景観復元の推進		事業番号：1・4・5・7・8・24～26				
- 古写真や絵はがき、古地図など昔の漁業集落や水産業の歴史文化を伝える資料を収集する。 - 収集した資料をVR等の技術に活用することで、景観復元を行いながら、歴史文化を継承していくプログラムを作る。 - 地域の歴史文化を語り合う場を作り、情報を収集していく。	市費 文化庁補助金 民間団体助成金	銚子市 協議会				
⑦日本遺産をはじめとする関連事業や関係団体との連携		事業番号：22・24～29				
- 各団体が実施している取り組みを「ものがたり」でつなぎ、大きな推進力となるよう連携体制を構築する。 「ものがたり」や「文化財保存活用区域」を活用し、関連事業を推進する。	市費 文化庁補助金 地方創生推進交付金 民間団体助成金	銚子市 協議会				

※事業番号は、関連する銚子市全体の措置の事業番号

銚子・ものがたり 2：緑広がる、大地のものがたり

本市は、利根川沿いの低地などに米を作る水田が限られているため、下総台地上での畑作が農業の中心で、農業産出高の約70%が野菜です。主な生産物はキャベツやダイコンで、特に春系キャベツの生産は全国一を誇っています。他地域よりも早い時期に出荷できるのは、銚子沖で黒潮と親潮が交差し、海洋性の気候であることが大きく影響しています。

標高約50mの下総台地上にある野尻遺跡(野尻町)では、弥生時代の住居跡から炭化米が出土し、弥生時代に米作が行われていたことが発掘調査により確認できました。弥生時代以降、銚子には米作りに適した土地が少ないため米以外に麦も栽培されていました。

16世紀に入り、天下統一を果たした豊臣秀吉が行った太閤検地の記録が市内にも残っています。1591年(天正19)9月1、2日に実施された猿田村(現猿田町)と同年10月9日に実施された柴崎村(現柴崎町)の検地帳※1です。検地を行った役人や地元案内人、耕作地の筆ごとの字名、縦横の間数、土地の種類や等級、面積、取米、土地所有者、耕作者が記載されています。その後も1612年(慶長17)に三崎村(現三崎町)で、1655年(明暦1)に高上村(現高神東町、高神西町)で検地が行われた記録が残っています。

米作りに適した土地は利根川沿いの低地ですが、利根川は塩水が混じり、水田に引く水として利用することには不向きで、水を確保することは至難の業でした。高田川流域の野尻・高田・芦崎・船木台・中島の5つの村は三門^{みかど}の堰を利用していましたが、各村々で水争いが起こり、役人に訴えている古文書が残っています。今も残る「お水番小屋」には、曜日によってその用水を利用している町内名が掲げられています。また、長塚町にある「七ツ池」も江戸時代中期に干ばつに悩まされた地域の人々により溜池として造られました。三方を水域に囲まれている位置にある銚子では、時代ごとに水域(海や川)から恩恵を受け、上手く利用し、発展をしてきましたが、灌漑用水を整備するために大変な苦勞をしました。

江戸時代中期頃になると、米と小麦の栽培が中心であった銚子で甘藷栽培が始まったと言われていいます。寛保年間(1741～1744)、今宮村唐子^{いまみやむらからこ}(現唐子町)の薩摩屋佐兵衛が甘藷栽培をして、江戸へ出荷した記録があります。『塵塚談』^{ちりづかたん}の宝暦年間(1751～1764)の江戸での甘藷流通に関する記録によると「上総、下総、銚子、岩槻、伊豆大島、そのほか諸所より多く作り、江戸へ運送す。銚子を上とし大島より出るを島芋というて絶品なり」とあり、銚子産甘藷は江戸で高い評価を受けていたようです。そして、利根水運を利用して、関東各地へ運ばれ、しだいに東北太平洋沿岸の港へ輸送され、人気を博していき、明治末から大正期になると鉄道輸送へと変わり、全国へ販路が広がっていきました。第二次世界大戦後、甘藷は代替食糧として需要が高かったのですが、米の安定供給が可能となると需要が低下し、価格変動が激しくなり、収益性の高い作物への転換が求められるようになってきました。

明治中期以降、青物用の甘藷栽培以外に、工業原料としての甘藷栽培にも力が注がれました。1889年（明治22）、本銚子町の石橋重兵衛が蘇我町（現千葉市中央区）から講師を招き、澱粉作りを習得し、銚子での生産が始まったと伝えられています。当初は、小規模で、農業の副業という程度のもでしたが、次第に有力な農家が製造工場を設置し、生産を開始しました。1907年（明治40）には27軒の工場がありましたが、1914年（大正3）には67軒と増加し、昭和の初め頃には工場の大規模化が見られるようになり、大正時代前期には醤油醸造業に次ぐ産業へと成長しました。第二次世界大戦後の砂糖不足でさらに澱粉の需要が高まりましたが、戦後、1951年（昭和26）に砂糖の統制が廃止され、澱粉の需要が激減し、1960年（昭和35）以降市内の澱粉工場も閉鎖を余儀なくされました。

この頃、畑作の中心は甘藷と麦で、野菜は自家用栽培の一部を農家が市内へ引き売りしていた程度でした。麦作の生産が不安定で、甘藷の価格変動も激しく、所得の安定などを目指し新作物の導入を検討した結果、「キャベツ」が採用され、1953年（昭和28）から試作が始まり、試行錯誤を繰り返しながら、先進地への視察研修や市場動向調査などを重ね4月に出荷できるキャベツ栽培の導入を決定、1955年（昭和30）に本格的な春系キャベツ栽培の第一歩を歩み出しました。その後、1957年（昭和32）「灯台印」のブランド化により他産地との差別化が成功したことにより春系キャベツが誕生しました。現在の繁栄を作れたのは、栽培に成功しただけではなく、集団栽培、共同販売体制の整備、また共同販売賛同者を募り、県の指導を得て、共同販売を展開できたことが要因といわれています。農家の人々は、自分たちの住む地域の風土の特徴をよく知り、甘藷栽培の衰退に対応できる絶好のタイミングを見極め、キャベツ、大根、トウモロコシと^{そさい}野菜栽培に力を注ぎ、一大農業生産地化を推し進め、メロンなどの園芸作物の栽培にも取り組んでいます。

市内に伝わる農業に関連する祭事には、西部地域に伝わる「おびしゃ」や「花見正月」が形式の変化はみられるものの今も受け継がれています。また、三崎町の大宮神社で行われる「杉みこし」も五穀豊穡のために行われていると地元の方は話してくれました。

江戸時代、天明の大飢饉の際、高崎藩の代官として銚子陣屋に派遣されていた庄川左衛門が、独断で高崎藩の銚子米蔵を開き、米を配給し、銚子の人たちを助けたという話が残り、左衛門を偲ぶ「じょうかんよ節」という民謡と踊りが作られ、今なお市民の間で受け継がれています。天明の大飢饉では、野尻村（現野尻町）の滑川藤兵衛家が長屋門※2建設を、高田村名主の宮内清右衛門家では高田河岸の整備をそれぞれ救い普請として行ったと伝えられています。

※1 いずれも県指定有形文化財

「天正検地帳」 下総国海上郡三崎庄猿田郷村野帳 （1982年（昭和57）4月6日指定）

「天正検地帳」 下総国海上郡三崎庄堀之内枝柴崎之郷屋敷帳及び水帳（2004年（平成16）3月30日指定）

※2 国登録有形文化財建造物 滑川家住宅長屋門 （2017年（平成29）6月28日登録）

「緑広がる、大地のものがたり」を伝える銚子資産

道 具：農業の道具・養蚕関係の道具・藍染関係の道具

風 習：おびしゃ・花見正月・神楽・じょうかんよ節・杉みこし

大地の成り立ち：地形・海流・気候・小畑池

建造物：滑川家住宅長屋門（国登録）・栗林家住宅

町並み：高神西町・高神東町・小畑町・小浜町・親田町・八木町・宮原町

人 物：庄川奎左衛門・宮内清右衛門・治兵衛・治右衛門・名主

施 設：七つ池・お水番小屋・三門の堰・三門用水・逆川・白石ダム（鶏沢大貯水地）・猪返し
観行院境内の石碑「享保14年3月建立」「明治6年4月建立」
庄川奎左衛門頌徳碑・耕地整理関係記念碑・新川竣工記念碑

古文書：天正検地帳（千葉県指定有形文化財）

滑川家文書・宮内清右衛門家文書・ヤマサ醤油株式会社所蔵文書・三崎町区有文書
親田町区有文書・玄蕃日記・先代集

伝 承：民話

景 観：キャベツ畑が広がる景観・生垣・農業集落の景観



庄川奎左衛門公德碑



農家の屋敷



キャベツ畑の広がる景観



東総用水土地改良区竣工記念碑

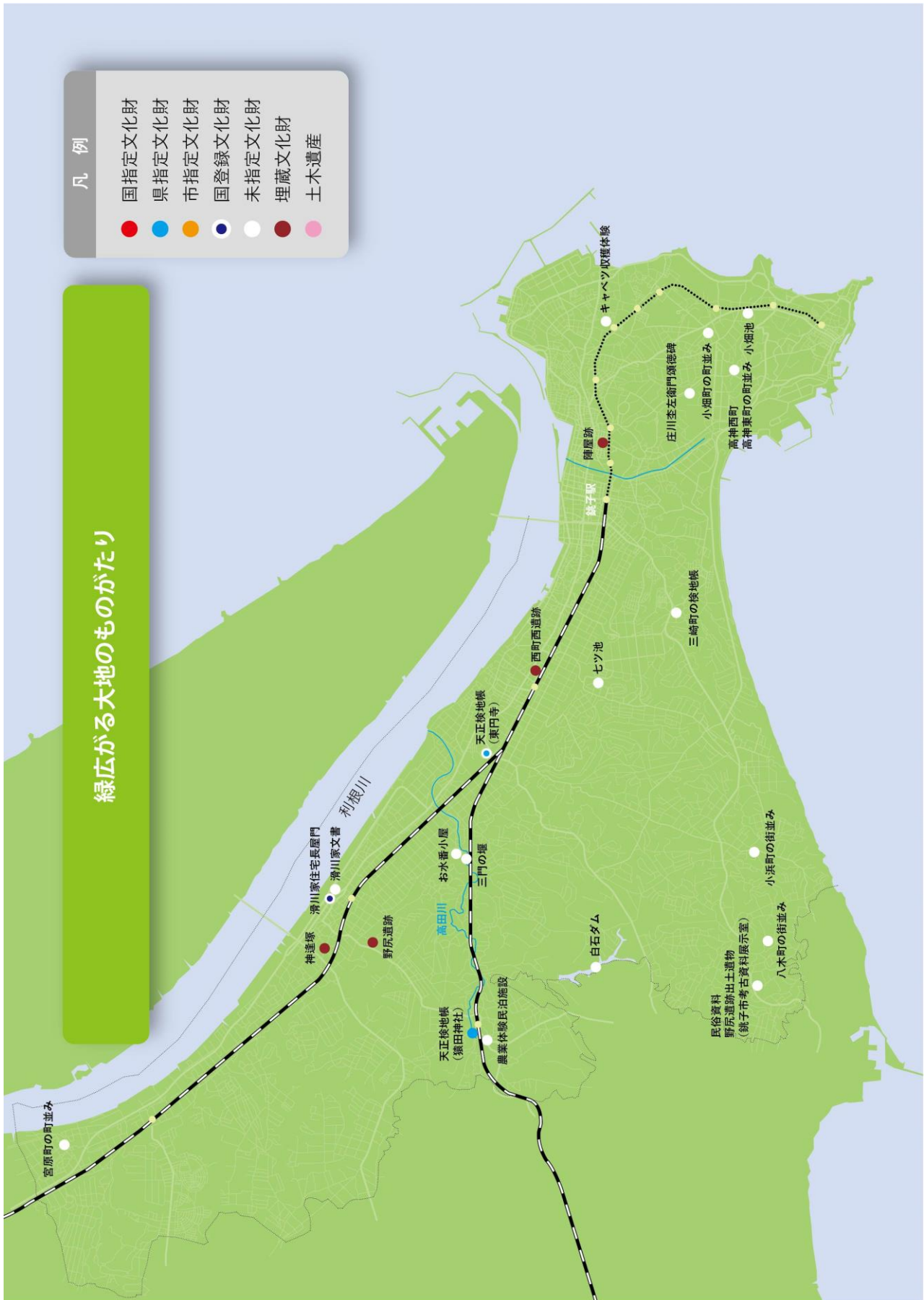


お水番小屋



逆川の三門の堰

「緑広がる、大地のものがたり」を伝える代表的な銚子資産の分布



【守りたい・伝えたい価値】

○県内有数の農業生産都市になった歴史を語る銚子資産

米作りに適した土地が少ない銚子でも弥生時代から稲作が始まり、県内有数の農業生産地になった歴史を語る多種多様な銚子資産が残っています。各時代に暮らした人々が銚子の地の利や風土の長所や短所と向き合いながら、農業の発展に取り組んできたことを知ることができる重要な銚子資産です。

・農業の変遷を支えた人々の知恵

米作りに適した土地が少ない中で、下総台地を開拓し、農業に適した土地を確保し、今では一面にキャベツ畑が広がっています。仲間同士で風土にあった作物を選択し、改良しつつ、首都圏に近いという地の利を生かして、県内有数の農業都市へと成長した歴史文化があります。

・農村集落の面影を伝える景観

宮原町周辺の西部地域の集落は、地域ごとに集落の様式や屋敷構え、用水、水路、水門等の工作物、そして集落ごとに伝わる祭事や講などが一体となり、地域ごとの農村集落の景観を生み出しています。

・地域の特色を示す農家の屋敷構え

農家の屋敷構えは、敷地の規模、敷地内での建物の配置（主屋・納屋・塀・門・その他の工作物）に地域ごとの特徴が見られます。建物の構造は、寄棟造り、瓦葺、下見板張り、平屋建ての住宅が多く、黒板張り（シブイタ塗）の建物、小壁が漆喰塗りのもの、出桁造りや正面に下屋が付いたものが見受けられ、生垣や石垣等にも違いがあります。

・農業に関する信仰

現在も農耕儀礼に係る祭礼や信仰が受け継がれ、地域ごとに特徴的な祭事が行われています。忍町周辺では、男性は「おびしゃ」、女性は「花見正月」が、三崎町内会では町内会で杉の木を管理し、杉で神輿を覆った「杉みこし」を作り、五穀豊穡を祈る祭が執り行われています。

【守り・伝えるための課題】

○関連する銚子資産の再整理

「漁業のまち」としての注目が高く、これまで「農業」という切り口で本市の歴史文化を把握する機会が十分ではありませんでした。そのため、把握した銚子資産を改めて整理し、「ものがたり」に関連する銚子資産の洗い出しを進めるとともに、「所在調査」を継続していく必要があります。

○まつりや風習の状況把握

代々受け継がれてきた経験に基づく知識や地域のつながりを形成していたまつり等の伝統行事は、農業を取り巻く環境や生活様式が変化し続ける中での継承が難しく、早急に対策を講じていかなければなりません。

○保存と活用のための連携

農業関係者の方々の協力を得ながら「ものがたり」を充実させ、歴史文化に支えられた「地域ブランド」力を高め、産業への付加価値となるよう関係者との連携体制を構築していく必要があります。

【守り・伝えるための方針】

○銚子資産の掘り起し

これまでの調査成果から「ものがたり」用の銚子資産リストを作成し、情報を整理します。既に把握している銚子資産の更なる情報収集や新しい銚子資産の掘り起こしを行うために、地域住民の協力を得ながら「所在調査」を推進します。

○農業の歴史を伝える銚子資産の保存・活用

把握した銚子資産の中から学術調査が必要な文化財に対して「基本調査」を行い、保護措置を講じていきます。

これまで農業集落の調査を行った宮原町や野尻町などから、屋敷構えや屋敷林に地域ごとの特徴を把握することができたので、市域全体の農業集落の把握を進めていきます。

○農業と暮らしに関連する銚子資産の次世代への継承と記録保存

市域に残る農業に関連する信仰や風習などを把握し、次世代への継承について検討していくとともに、行事等の記録保存を進めます。

○農業関係者との連携と若い担い手への支援

「ものがたり」や関連する銚子資産の活用を図り、歴史文化に基づく地域ブランドの向上を目指すために、農業関係者との連携を構築します。

また、本市は専業農家の割合が高く、若い世代の生産者も増えつつあります。彼らは独自ブランドを立ち上げ、販路を築き、また収穫体験を含めた農業民泊などを展開しながら、農業振興や地域ブランドの構築に力を注いでいます。このような取り組みに農業の歴史の継承を要素として取り入れてもらえるように協力関係を構築していきます。

【守り・伝え・活かすための措置】

守り・伝え・活かすための必要な措置	財源	主体者	事業計画期間		
			短期 3年	中期 5年	長期 10年
① 銚子資産の掘り起こし	事業番号：1				
・各町内会ごとに実施してきた「銚子資産所在調査」成果から、「ものがたり」用の銚子資産リストを作成する。 ・リストにより把握の現状を確認し、再調査や情報収集を行う。	市費	銚子市			
② 農業の歴史を伝える銚子資産の保存と活用	事業番号：1・2・4・5				
・把握した「銚子資産」の保存と活用の方法を整理する。保護措置を講じる必要がある「銚子資産」を選定し、「文化財基本調査」を実施する。 ・市内の農業集落の把握と現状の確認、特徴を把握するための情報収集を行う。	市費	銚子市			
③ 農業と暮らしに関連する銚子資産の次世代への継承と記録保存	事業番号：1～5・9・16				
・①や②で実施した「銚子資産所在調査」で把握した農業に関連する生活様式や祭事、風習等をリスト化する。 ・関連する団体からそれぞれの現状と課題を聴取し、次世代への継承の方針を検討する。 ・記録保存が必要な「銚子資産」をリスト化し、事業を実施する。	市費 文化庁補助金 民間団体助成金	銚子市 協議会			
④ 多様な主体者との連携	事業番号：22				
・本市の歴史文化が礎となった「銚子ブランド」の向上を目指し、農業関係の事業者との連携体制を作る。	市費 文化庁補助金 民間団体助成金	銚子市 協議会			

※事業番号は、関連する銚子市全体の措置の事業番号

銚子・ものがたり 3 : 銚子磯めぐり・今と昔のものがたり

本市は関東平野の最東端、千葉県北東部に位置し、北は利根川、東から南は太平洋と三方を水域に囲まれています。太平洋に突き出た半島状を呈し、地形は半島部分の丘陵、千葉県北西部から続く下総台地、利根川沿いに広がる沖積低地から成り立ち、半島部分がくびれた形になっているのは、中生代ジュラ紀から白亜紀の地層により形成され、比較的硬い岩石が海岸部分に露出し、侵食を抑える役割となったためです。

また、半島南西部に広がる屏風ヶ浦に接して、約 10 km の海食崖が続いています。この海食崖は、後期更新世の約 12－13 万年前頃に古東京湾の浅海底で堆積した土砂が隆起してできた台地で、波浪により削られてできました。この海食崖を構成する地層は、大きく 2 層に分かれ、約 300 万年－45 万年前に深海で堆積した地層（犬吠層群）と約 12 万年－6 万年前頃に浅海底に堆積した地層（香取層）で、岩質の違う地層は、灰色とうす茶色という地層の色彩的なコントラストを生み出しています。

この大地が形成されていく過程の中で、海岸線の硬い岩石が激しい波浪により様々な形の奇岩となり、水平線が一直線に広がり、海食崖が続く屏風ヶ浦などの自然景観を作り出し、それらが銚子の自然美の魅力を高めています。

銚子は、平安時代末から鎌倉時代頃、「三崎庄」または「海上庄」と呼ばれ、九条家領荘園でした。九条家の家司であった藤原定家が、この東の果ての銚子を所領していた時期があり、三崎庄の情報が畿内にも広がっていたと考えられます。この頃、現在の利根川はなく、下総と常陸の国境に香取の海という内海が広がり、沿岸には香取神宮や鹿島神宮があり、大和朝廷が蝦夷平定に向かう際の要所であったことから、多くの人々が往来する場所となり、この辺り一帯が素晴らしい景観と感じる人々も多かったのであろうと推測できます。例えば、鴨長明の家集『鴨長明集』（1181 年（養老元）成立と推定）の「秋」の部に「海上月」と題した歌、

玉と見るみさきか沖の浪間より立出る月の影のさやけさ

は、畿内に広がっていた情報を耳にし、三崎の月を着想して詠んだとされ、ここ「香取の海」は、歌の名所として広く知られた場所でした。

江戸時代に入り、庶民の間に伊勢参りをはじめとする信仰の旅や各地の名所・旧跡を訪ねる旅が盛んになりました。銚子は利根川の東遷により東北と江戸を結ぶ中継地として大いに賑わい、江戸、神奈川、水戸に次ぐ、大都市に発展しました。この経済発展を導いた利根水運は、香取神宮、鹿島神宮、息栖神社の東国三社参詣後、銚子磯めぐりを楽しむ旅人を運び、銚子に江戸からの文化も運びました。この「銚子磯めぐり」とは、木下茶船で利根川を下降し、松岸河岸で下船、妙見宮や飯沼観音、そして銚子の海岸線一帯に広がる奇岩奇礁が生み出した景観を巡り、名洗浜が終着地となる「東国三社詣」のオプションルツアーといえる旅行プログラムでした。

「磯めぐり」の評判を高め、広めたのは、小林一茶などの多くの文人墨客で、銚子の豪商宅に逗留して、銚子を満喫し、その後江戸へ戻り、銚子で詠んだ句や土産話が江戸で広まっていきました。

また、1854年から1856年（安政1～3）に発行された日本全国の名所を浮世絵69枚にまとめた歌川広重作「六十余州名所図会^{ろくじゅうよしゅうめいしよずえ}」の中に、「下総銚子の濱 外浦」として名洗浦、今の屏風ヶ浦が描かれています。この場所は、富士見の名所として知られていたことが採用された理由と推測できます。さらに、幕末維新期の漢詩人である大槻盤溪^{おおつきばんけい}が、1847年（弘化4）5月に来銚した際、「銚港雑詠」を詠み、屏風ヶ浦を「十里の赤い断崖が続く雄大な」景観と視覚的なイメージを端的に表現していて、そのイメージは今もなお受け継がれています。

このように多くの文人墨客をはじめとする来訪者が、銚子の魅力をさまざまな方法で伝えることにより、江戸からの旅の目的地として人気を博し、銚子磯めぐりは、明治期以降も文人などに受け入れられ、文学作品や旅行案内で紹介されました。

1874年（明治7）、犬吠埼に国内24番目の西洋式灯台が完成し、点灯しました。この灯台は、英国人技師リチャード・ヘンリー・ブラントンの設計で、千葉県香取郡下総町（現 成田市高岡）の粘土で作った国産レンガ約19万3,000枚を使用して建設されました。この灯台見たさの見物人が大勢押し寄せ、さらに健康増進のために海水浴が効果的であるという考え方が西洋から導入され、犬吠埼周辺が銚子の一大観光地として発展しました。

観光客を犬吠埼へ運ぶ銚子・犬吠埼間を結ぶ観光路線を整備するために、濱口吉兵衛や13代田中玄蕃、小野田周斎などが発起人となり、1913年（大正2）1月に銚子遊覧鐵道株式会社を設立し、同年12月に銚子-犬吠間が開業し、仲ノ町、観音、本銚子、海鹿島に駅を設置しました。これが今の銚子電氣鐵道株式会社（銚子電鉄）の前身ですが、経営不振が続き、さらに1914年（大正3）に第一次世界大戦がはじまり、1917年（大正6）に廃止されました。再び、銚子-犬吠間、そして外川まで鐵道が開設されるのは、1923年（大正12）でした。市民の足として利用されてきた鐵道は、自動車の普及によりしだいに利用者が減っていますが、車窓から眺める風景、銚子遊覧鐵道株式会社時代から残る歴史的な価値を有する駅舎など銚子の風景の中になくてはならないものとなっています。

銚子で一番高い山、標高73.6mの愛宕山は、北は鹿島灘、東から南にかけて太平洋の海原を、西は屏風ヶ浦から九十九里浜まで見渡せる場所で、明治の文豪田山花袋自らの滞在経験に基づく銚子を題材にした数多くの作品の中にここから見た景観が描かれています。また、1917年（大正6）発行の「千葉縣海上郡誌」でも、愛宕山からの景観が「名洗浦」とともに「名勝」のひとつとして掲載されています。

1988年（昭和63）、銚子市は愛宕山の頂上に「地球の丸く見える丘展望館」を設置し、屋上展望スペースから北は鹿島灘、西は九十九里浜北部を眺望できるように整備し、天候などの条件が整えば、富士山や筑波山の背後に日光男体山なども見えます。この場所には、1937年（昭和12）に地球展望台、1968年（昭和43）に犬吠スカイタワーなどが建設されていて、その歴史から地域住民は愛宕山から望む景観が他の地域にはない優れた景観であると認識していたのでしょう。

そして、1992年（平成4）に愛宕山周辺の良い景観を形成するため、市民のかけがえのない財産である自然景観を守り、つくり、育てることを目的に、「地球の丸く見える丘景観条例」を制定しました。銚子市民が景観条例を制定し、守ってきた愛宕山から望む「屏風ヶ浦」の景観は、2016年

(平成 28) 3 月 11 日に国の名勝及び天然記念物として文化財指定されました。この屏風ヶ浦は、犬若から旭市刑部岬にかけて緩やかに湾曲した海食崖に囲まれた海域で、まっすぐに延びる水平線、雄大な海と空、激しい波浪と戦い続けるむき出しの大地、そして海岸沿いの奇岩奇礁が屏風ヶ浦の景観を構成しています。この景観が、江戸時代以降の磯めぐりの旅の隆盛とともに浮世絵、文学作品、旅行記等に登場したことで、名声を広く知らしめ、今では日本の自然景観を代表する場所となり、その屏風ヶ浦の景観を楽しむ最高の場所のひとつが愛宕山です。

銚子の海岸線に広がる景観に多くの魅力的な価値を有していたことから、1935 年(昭和 10)に「国立公園法」を準用し、銚子半島一帯が「千葉県立銚子公園」になりました。その後、1959 年(昭和 34)に水郷国定公園となり、1969 年(昭和 44)に筑波山系が加わり水郷筑波国定公園に変更され、自然景観が保護されてきました。しかし、1951 年(昭和 26)から開始した名洗港湾整備により、犬若海岸が海水浴場から近代的な港湾へと整備されたことで、優れた自然景観の一部を失うことになりました。

また、屏風ヶ浦に接する崖の侵食は、0.5m/年-0.9m/年であったと推定され、約 5,000 年前-4,000 年前はおそらく現在より 2 km ほど東に延びていたと考えられており、古くは当地域の在地領主であった片岡次郎常春の佐貫城^{さぬきじょう}が海食により海没したことや三崎町内会に残る 1900 年(明治 33)『海岸原野欠ヶ崩シ予防保安林松木植付許可願』には、「海水激波のため一日毎に数十丈の欠ヶ崖となる危険の地」と記載され、地域住民は激しい波浪の被害者でもありました。

港湾工事や防波堤の設置という一連の開発行為は、人間の力ではどうすることもできない自然の力を抑え、人と自然が親しめる環境へと変えていく役割を担うことにより、私たちにこれまでとは違う自然感をもたらし、新しい景観の価値や楽しみ方を生み出しました。

銚子を代表する景観は、江戸時代以降人気を博した「銚子磯めぐり」の見どころにもなっている君ヶ浜、犬吠埼、屏風ヶ浦などの海岸まわりの自然景観です。これらの成り立ちを知り、今見える景観が出来上がった理由を知ること、身近な自然や環境を大切に、災害から身を守るすべを学ぼうとする「銚子ジオパーク」活動が始まりました。さらに、年間を通じて、銚子沖の洋上で野生のイルカやクジラを観る「イルカウォッチング」や屏風ヶ浦の洋上から景観を楽しむ「屏風ヶ浦クルーズ」などのプログラムもあります。

自然景観以外で特徴的な景観には、市街地で見られる産業景観があります。市街地のほぼ中心部にある醤油醸造の工場群が醸し出す景観や活気ある漁港の景観はどれも「銚子ならではの」の景観で、江戸から続く産業のストーリーが日本遺産「北総四都市江戸紀行」の一端を担っています。このような景観を楽しむために、銚子ボランティアガイド観光船頭会や銚子ジオパーク市民の会等のガイド組織もあり、多彩な切り口で景観を楽しむことができます。

「銚子磯めぐり・今と昔のものがたり」を伝える銚子資産

自然景観：屏風ヶ浦（国指定名勝及び天然記念物）・愛宕山から見る景観・洋上からの景観・坂道からの景観・利根川河口の景観・海岸周りの景観・日の出・夕日・富士山が見える景観・月への階段

景観を生み出している大地の成り立ち：犬吠埼の白亜紀浅海堆積物（国指定天然記念物）・古銅輝石安山岩・夫婦ヶ鼻・黒生・海鹿島・君ヶ浜・西明浜・愛宕山・長崎鼻・波止浜・千騎ヶ岩・犬岩・下総台地・波浪・利根川の低地・猿田神社の森・渡海神社の極相林・犬若崖地性植物群落

芸術作品等と関連のある場所及び人物：妙福寺・浄国寺・飯沼観音・胎内くぐり・臥龍の藤・通漣洞・松岸町・海鹿島町・長崎町・犬若・名洗町の町並み

観光都市づくりに寄与した人物：田中玄蕃・濱口吉兵衛・小野田周斎

景観を楽しむことが出来る施設：地球の丸く見える丘展望館・銚子ポートタワー・犬吠埼灯台・犬吠テラステラス・銚子ジオパークビジターセンター・銚子ジオパークミュージアム

観光に関連する産業：銚子電鉄・宿泊施設（大新旅館、暁鷄館など）・利根水運関係

景観や観光の歴史を伝える資料：紙本淡彩銚子名所絵図（市指定）・個人所有の名所図会・芳墨帖・永正六年御神幸奉納俳諧連歌銅板・文学碑・写真・絵ハガキ

その他： 岩礁の名前・金子周次作品・俳句・短歌・波の音・磯のかおり



紙本淡彩銚子名所絵図「妙見宮」



臥龍の藤「妙福寺」



銚子電鉄外川駅（2015年撮影）



川口神社から見た風景



文学碑（高浜虚子）



観光絵はがきの表紙



【守りたい・伝えたい価値】

○自然景観を生み出した歴史を語る銚子資産

地球規模の歴史の流れの中で生み出された自然景観の理由やその自然景観が人々に与えた影響から、名勝地へと認識されるに至った過程を理解することができる多種多様な銚子資産が残っています。科学的な視点や人文的な視点から自然景観のすばらしさを語る上では重要な銚子資産です。

・自然景観を生み出した大地の成り立ち

海岸線にはさまざまな地質時代の地層や岩石が露出しています。その地質資産が生み出す素晴らしい自然景観を支える大地の成り立ちを学ぶことができます。

・江戸時代の磯めぐりから続く景勝地としての魅力

江戸時代後半、東国三社詣出のオプションツアーとして隆盛を誇った「銚子磯めぐり」の見どころは、現在も銚子観光の人気のスポットです。今後も景観を構成する眺望地点の保全や新設、さらに広域的に景観をとらえることを意識しつつ、歴史的・文化的な背景や人とのつながりを含めたストーリーとともに紹介し、景観の価値を高めていくことが重要です。

○文化的景観を構成する銚子資産

風土とそれを活かした人々の暮らしが相互に影響を与えながら形成された文化的景観は、「銚子ならではの」を伝える大切な銚子資産です。

・日常の風景の中の価値の再評価

海や醤油工場、漁港、灯台、銚子電鉄の駅舎などは、私たちが暮らす生活の中に溶け込み、当たり前前の風景となっています。しかし、この風景は、私たちが風土に支えられ、活かしながら暮らしてきた生活そのものであり、「銚子ならではの」という地域を体現する景観として再認識することが大切です。

【守り、伝えるための課題】

○景観認識に基づく地域づくり

景観は個々の主観であり、同じ景観を見てもその捉え方は人によって違います。景観を構成する銚子資産をピックアップし、それらがお互いにどのように関連しているかを理解していくための情報を整理し、その情報を提供しながら、私たちはどのような景観を守り、伝えていくかを十分議論していく必要があります。景観は地域の風土の多様性とそこでの人々の暮らしの重層性が生み出す地域固有のものであり、できるだけ多くの人々が後世に残していきたい「景観」を見出していかなければなりません。

○地質資産の保護と指定文化財の保存活用計画の作成

海岸周りに露出している地質時代の岩石や地層は、自然景観を生み出す重要な地質資産であるため、その価値を評価し、適正な保護に努めていかなければなりません。また、国指定天然記念物「犬吠埼の白亜紀浅海堆積物」と国指定名勝及び天然記念物「屏風ヶ浦」は、個別の保存活用計画の作成に取り組んでいく必要があります。

【守り、伝えるための方針】

○景観の保全の方向性の確認

銚子観光の最大の資源でもある自然景観の価値の重要性を再考し、文化財保護法や「銚子市地球の丸く見える丘景観条例」とともに、将来にわたる景観保全の方向性を十分議論することが重要です。現在、銚子沖での洋上風力発電設備整備計画が進んでいますが、文化財の価値に配慮した計画となるように努めていきます。

○文化芸術振興との連携

景観の魅力を高めるために、俳句や版画等の文化芸術振興と連携した取り組みを行います。例えば、銚子市出身の版画家である金子周次作品とのコラボ企画「金子周次の風景を歩こう」は毎回好評を得ています。文化活動との連携を図ることで新たな魅力発信につながるように努めていきます。

○情報発信やガイド活動の充実

現在のインスタグラムブームに象徴されるように、「美しい」「特異な」などの景観への興味関心は高まっています。単なるブームに終わらせるのではなく、「なぜ美しいのか」「なぜ特異なのか」という景観の成り立ちの背景を含めて活用し、銚子資産の保護につなげていきます。

【守り・伝え・活かすための措置】

守り・伝え・活かすための必要な措置		財源	主体者	事業計画期間			
				短期 3年	中期 5年	長期 10年	
①関連する銚子資産の再整理		事業番号：1・2					
これまで実施してきた「銚子資産所在調査」を整理し、関連する「銚子資産」をリスト化するとともに、より多くの情報を得るために再調査を実施する。		市費	銚子市				
把握した「銚子資産」の保存と活用の方法を整理する。保護措置を講じる必要がある「銚子資産」を選定し、「文化財基本調査」を実施する。							
②景観の把握と保全		事業番号：1・2・13					
自然景観を生み出す地質資産を把握し、価値を評価し、適正に保護して、保全に努める。		市費 文化庁補助金 県費補助金	銚子市				
国指定天然記念物「犬吠埼の白亜紀浅海堆積物」の保存活用計画を作成する。							
国指定名勝及び天然記念物「屏風ヶ浦」の保存活用計画を作成する。							
市民が後世に守り伝えていく景観とは何かを議論する場を作る。		市費	銚子市				
「本市ならではの」優れた景観を後世に継承していくためにも、都市計画関係課へ景観計画策定の理解を求めていく。		市費 他省庁補助金	銚子市				
③景観の活用		事業番号：24～29					
「ものがたり」を活用して、「銚子磯めぐり」の魅力を高めるため、情報発信やガイドツアーなどを充実させ、景観の価値を伝える。		市費 文化庁補助金 地方創生推進交付金 民間団体助成金	銚子市協議会				
文化芸術活動の場として景観の活用を推進する。		市費 文化庁補助金 地方創生推進交付金 民間団体助成金	銚子市協議会				
景観の成り立ちや歴史的な背景を銚子ジオパーク活動により伝えていく。		市費 文化庁補助金 地方創生推進交付金 民間団体助成金	銚子市協議会				

※事業番号は、関連する銚子市全体の措置の事業番号

銚子・ものがたり4：東奔西走・銚子商人のものがたり

1616年（元和2）、摂津国西宮の酒造家で海産物問屋を営んでいた真宜九郎右衛門が、銚子の豪農3代田中玄蕃に製造法を伝授し、ヒゲタ醤油が始まりました。これが銚子での醤油醸造業の始まりとされています。その後、1645年（正保2）に紀州広村出身である初代濱口儀兵衛が銚子に渡り、創業したのがヤマサ醤油です。現在、市内では創業1941年（昭和16）の宝醤油と創業1875年（明治8）の小倉醤油を含めた4軒が醤油醸造業を営み、岩崎重次郎が起こした山十商店は「^{ひしお}醬」を製造しています。

銚子で醤油醸造業が発展した理由は、銚子沖で黒潮と親潮がぶつかりあい、温暖多湿で夏冬の気温差が少ないという気候が、醤油作りに欠かせない麹菌などの育成に適していたこと、醤油造りに必要大豆や小麦、塩などが霞ヶ浦周辺の地域で賄えること、利根水運によって江戸への輸送が可能であったこと、といわれています。

銚子で醸造を開始した頃の醤油は「^{たまりしょうゆ}溜醤油」で、江戸で消費される醤油は、紀州や関西などからの「下り醤油」がほとんどでした。ヒゲタ醤油5代田中玄蕃が、江戸の食味に合うように、小麦や米麹等を利用して醸造法を改良した結果、現在の濃口醤油の基礎が出来上がり、これが江戸で大評判となり、銚子の醤油醸造が大いに賑わうことになりました。

江戸の町が発展し、それに伴い膨れ上がる人口、その発展を支える労働力であった「江戸っ子」には、色、味、香りが良く、味付けが濃い「関東風の醤油」が好まれ、1770年（明和7）頃からしだいに「地回り醤油」が中心となり、これにより、今に続く江戸の食文化が開花したといわれています。

明治に入り、醤油は庶民にとっては食生活の必需品となり、消費がますます増えていきますが、醸造は手工業的な要素が強く、1893年（明治26）、10代濱口儀兵衛（^{ごどう}梧洞）が国内初の醤油研究所を開設し、製造方法の近代化へ取り組みました。そして、市内の醤油醸造業の事業者は機械化・工業化に取り組みながら、生産の効率化や集約化を図り、企業間で合併等をしつつ、生産力の拡大に努めていきました。

銚子の商人たちは、利根水運による江戸との商いで、江戸に支店を持ち、頻繁に江戸と銚子の間を往来しました。その中で、江戸で流行の文化に触れ、経済力を背景に江戸文化人のスポンサー的な地位も築いていくのです。

小林一茶は、文化・文政時代に度々下総各地の俳友や弟子を訪ねて来遊し、銚子の豪商大里家に滞在しました。当時、名だたる俳人を銚子に招き、^{じょうこくじ}浄国寺の^{ぼうせいだい}望西台などで句会を開いた大里氏は「桂丸」という俳号を持ち、自ら俳諧に親しむなど、江戸文化に魅了されていました。また、平田篤胤・鉄胤は、下総遊歴で多くの門人を受入れ、下総国学を発展させ、猿田神社や石上酒造にはその時の資料が残されています。

利根水運により銚子から江戸へ、江戸から銚子への人の往来がしやすくなったことが、江戸の文化を運び、地域文化を醸成していくことにつながったといえます。その一つとして、^{みやうちよしなが}宮内嘉長開創の「^{しゅがくじゅく}守学塾」など幕末から明治にかけて私塾が立ち上がり、市内の各町内に「寺小屋」が開かれ、

筆子塚なども残っています。

1853年（嘉永6）にヤマサ醤油7代濱口儀兵衛を名乗った梧^{ごりょう}陵は、実業家としてだけでなく、社会福祉事業や政治活動に力を注ぎました。梧陵は銚子で開業していた医師^{せきかんさい}関寛斎をコレラ予防の研究のため江戸へ送り、二人が中心となり銚子でのコレラ防疫と治療に尽くしました。さらに、佐久間象山や勝海舟、福澤諭吉等との交流が日本の近代化の発展につながっていきました。また、10代濱口儀兵衛（梧洞）は、社会教育事業のために私財を投じて、1924年（大正15）に財団法人公正會を設立し、夜間中学公正學院と公正圖書館の設置運営、講堂利用による各種社会事業活動を行い、その活動の場として「公正會館」（現銚子市中央地区コミュニティセンター）を1926年（大正15）に建設しました。

濱口吉兵衛（1914年（大正3）に銚子醤油合資会社を設立）や13代田中玄蕃らにより銚子駅と外川をつなぐ鉄道敷設について検討が繰り返され、1912年（明治45）に銚子－外川間に蒸気鉄道の敷線を申請し、1913年（大正2）に銚子－犬吠駅間が開業しました。

千葉県は醤油生産日本一で、国内生産量の3割を銚子と野田で占めています。1616年（元和2）に始まった銚子の醤油醸造業は約400年経過し、今なお市の中心市街地に工場群があり、独特の都市景観となっています。空襲や1970年代までに関連施設が集約されたことにより、明治から昭和初期の醸造施設は残念ながらほとんど残っていませんが、1920年代に新設された施設が、主力として機能しており街路に面した煉瓦造りの建物の壁など歴史的な趣を見せている景観も残っています。かつての工場跡地が市役所などの公共施設に転用されているという歴史も市の発展に貢献した証であり、大切に守り、伝えていくべき銚子資産です。

「東奔西走・銚子商人のものがたり」を伝える銚子資産

醤油醸造に関する道具：木桶・醤油作りの道具

醤油醸造に関する信仰：高倍神社・水神宮

醤油醸造と大地の成り立ち：気候・銚子の位置と周辺の自然環境・湿気

醤油醸造業と関連する建造物：旧公正會館・ヤマサ醤油レンガ蔵・濱口家とレンガ塀

ヒゲタ醤油社宅・ヒゲタ醤油保険組合別邸・和田酒店石蔵

醤油醸造業に関連する人物：田中玄蕃・濱口吉兵衛・小野田周斎

観光都市づくりに寄与した人物：田中玄蕃・濱口吉兵衛・岩崎重次郎

輸送に関連する資料：引き込み線架橋跡・旧貨物線敷跡（道路）・旧新生貨物駅跡（中央みどり公園）

商人たちとの交流に関する資料：浄国寺・猿田神社・俳句・句碑・木国会碑

醸造業の歴史を伝える資料：ヤマサ醤油株式会社文書・玄蕃日記

学問に関する資料：寺子屋や私塾に関する資料・峯神社・宮内君甫・関寛斎

その他：醤油工場のある風景



醤油作りの道具



ヒゲタ醤油醤油蔵出し風景



竜の井（玄蕃井戸）



濱口梧陵紀徳碑

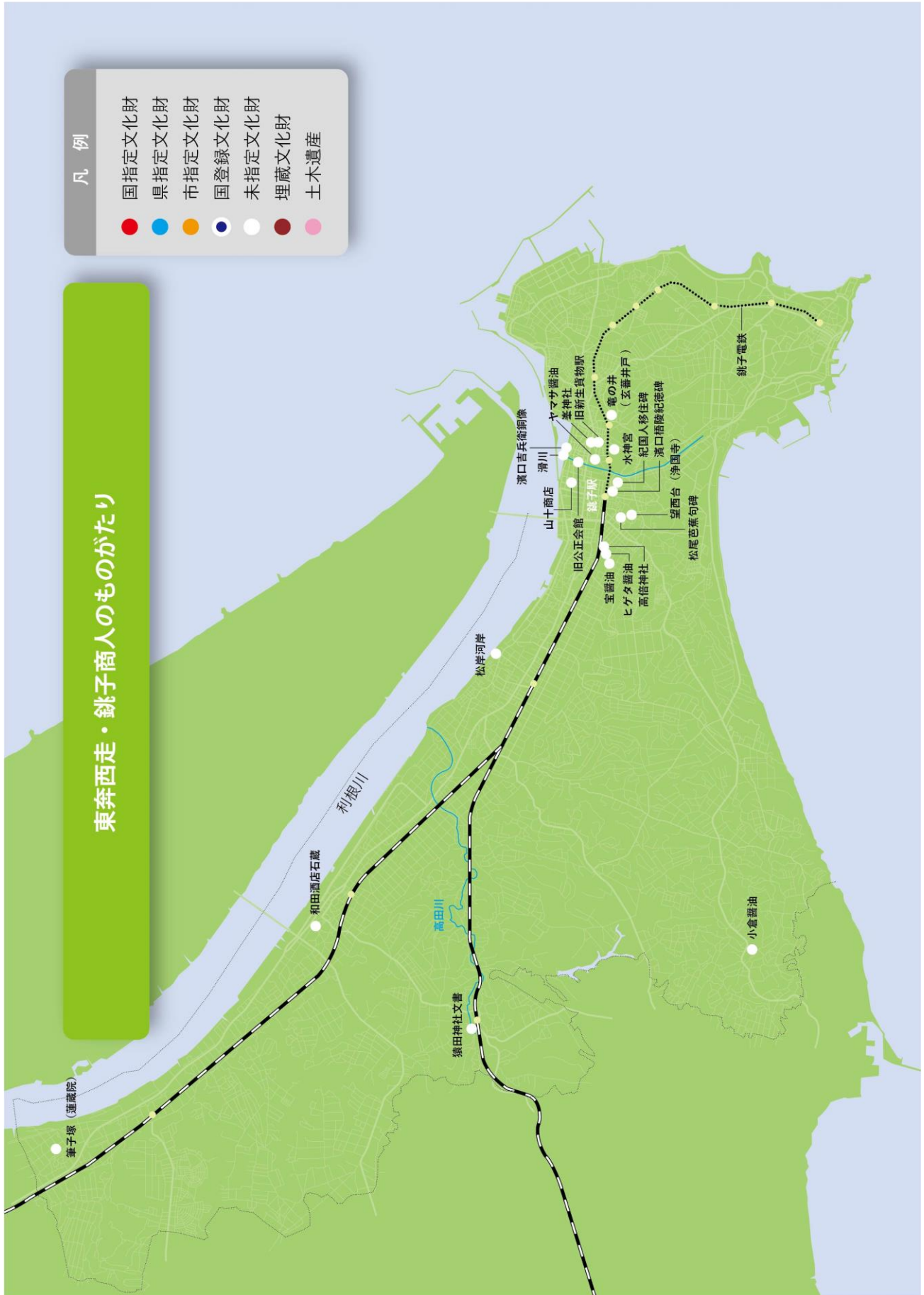


旧公正會館
(現 銚子市中央地区コミセン)



ヤマサ醤油西蔵

「東奔西走・銚子商人のものがたり」を伝える代表的な銚子資産の分布



【守りたい・伝えたい価値】

○江戸時代から続く地の利を活かしたモノづくりの象徴

銚子が関東地方の中で有数の大都市に発展できたのは、利根川の東遷により江戸の外港としての役割を担い、さらに銚子の風土が「モノづくり」に適していたことが大きな要因です。醤油醸造業は、江戸時代から約400年続く「モノづくり」を代表する産業で、町の発展との関係や「人づくり」に関連する銚子資産を一体的に継承してその価値を受け継いでいきます。

・醤油造りと風土と地の利

摂津国西宮から伝わった醤油醸造が銚子で約400年続き、日本有数の生産地となった歴史や大地の成り立ちや土地の変遷などを総合的に「ものがたり」を活用して伝えていきます。

・産業が支えた都市の景観

市役所をはじめとする現在の中心市街地にある公共施設は、醤油醸造関連施設の変遷と関係があります。この景観の変遷を通じて、醤油醸造業をはじめとする産業が都市としての発展に貢献したということを伝えていきます。

・「モノづくり」は「人づくり」の精神の継承

商いで成功した商人たちは、銚子の政治、経済、文化の発展にも寄与し、社会福祉事業や社会教育を積極的に行い、本市の発展を支えました。このような「モノづくり」と「人づくり」を大切にしてきた先人たちの教を「モノづくり」の歴史とともに継承していきます。

【守り・伝えるための課題】

○醤油醸造関連施設の保護

旧公正會館や竜の井（通称、「玄蕃井戸」）をはじめとする醤油醸造に関連する歴史的建造物の価値を把握し、適正に保護していく必要があります。

○景観復元の検討

空襲や1970年代までに関連施設が集約されたことなどにより、視覚的に「ものがたり」を伝えることが難しい状況にあり、分かりやすく伝える手法を検討していく必要もあります。

【守り・伝えるための方針】

○醤油醸造業の歴史を伝える銚子資産の保護と活用

各醤油醸造関連企業と連携し、醤油醸造の技術や産業としての発展の歴史を伝える銚子資産をリスト化し、保護の在り方を検討していきます。空襲被害により資料が消失しているという情報もありますが、現状の把握とともに幅広く情報を求め、その収集にも努めます。

○ストーリーと一帯となった歴史の周知と活用

単に醤油造りだけを紹介するのではなく、産業が本市の発展のためにどのような役割を担い、支えてきたのかという歴史ストーリーを整えて、活用していきます。醤油醸造関連施設が建設されていた一体は空襲被害も受けており、古写真などを上手く活用して、わかりやすく歴史を伝える工夫をしていきます。

○日本遺産での取り組みの充実

醤油醸造は日本遺産「北総四都市江戸紀行」の構成文化財です。関連企業と銚子市日本遺産活用実行委員会とともに醤油醸造の歴史文化を活かす取組みを連携して推進していきます。

【守り・伝え・活かすための措置】

守り・伝え・活かすための必要な措置	財源	主体者	事業計画期間		
			短期 3年	中期 5年	長期 10年
①商業の町銚子を伝える銚子資産の掘り起こし		事業番号：1・2			
・これまで実施してきた「銚子資産所在調査」を整理し、関連する「銚子資産」をリスト化するとともに、より多くの情報を得るために再調査を実施する。 ・把握した「銚子資産」の保存と活用方法を整理する。保護措置を講じる必要がある「銚子資産」を選定し、「文化財基本調査」を実施する。 ・市域内の農業集落の把握と現状の確認、特徴を把握するための情報収集を行う。	市費	銚子市			
②醤油醸造業に関連する銚子資産の掘り起こし		事業番号：1・2			
・これまで実施してきた「銚子資産所在調査」を整理し、関連する「銚子資産」をリスト化するとともに、より多くの情報を得るために再調査を実施する。 ・把握した「銚子資産」の保存と活用方法を整理する。保護措置を講じる必要がある「銚子資産」を選定し、「文化財基本調査」を実施する。	市費	銚子市			
③景観復元の推進		事業番号：1・4・5・7・8・24～26			
・古写真や絵はがき、古地図など昔の町並みや醤油醸造業の歴史文化を伝える資料を収集する。 ・収集した資料をVR等の技術に活用することで、景観復元を行いながら、歴史文化を継承していくプログラムを作る。	市費 文化庁補助金 民間団体助成金	銚子市 協議会			
④「ものがたり」を伝える銚子資産の保存と活用		事業番号：2・9・24～26・29			
・「旧公正會館（現銚子市中央地区コミュニティーセンター）」の保存と活用 * 登録文化財原簿へ登録し、保存活用計画を策定する。 * 歴史文化観光の拠点施設としての活用を検討する。 ・「竜の井（通称 玄蕃井戸）」の保存と活用の検討 * 「文化財基本調査」の実施と価値の評価	市費 文化庁補助金 県費補助金 民間団体助成金 地方創生推進交付金	銚子市 協議会			
	文化財補助金 市費 民間団体補助金	銚子市 協議会			

※事業番号は、関連する銚子市全体の措置の事業番号

銚子・ものがたり 5 : 銚子湊と利根水運のものがたり

茨城県との県境にあたる銚子の北部は、縄文時代には古鬼怒湾が、そして約 1,000 年前には香取の海が広がり、各時代、この水域を利用して、銚子と他地域との交易・交流があったことが推測できる出土品が発掘調査をした遺跡から出土しています。

縄文時代の栗島台遺跡では、神津島産の黒曜石や東北・西関東地域の特色を持った土器が出土し、古墳時代の椎柴小学校遺跡からは、東海地方で作られた土器や北関東で産出する緑色凝灰岩という石材が見つかっています。余山貝塚で作られた貝輪や骨角器、海岸線に露頭しているチャートや古銅輝石安山岩などの岩石が石器を作る材料として、「銚子石」と呼ばれる砂岩は砥石などに利用され、銚子から周辺の地域に運ばれていきました。この銚子石は、中世には石造物の材料として現在の霞ヶ浦周辺の地域に、そして江戸時代には「海上砥」として江戸に大量に運ばれました。また、栗島台遺跡から出土したコハクも当時の大切な交易品であると考えられています。

香取の海は、蝦夷征討時の兵士や兵糧米等の運搬時に水上交通の重要な役割を持ち、沿岸にある香取神宮や鹿島神宮は、この海の利権を掌握し、強大な権力を持っていました。香取の海で船が往来していたということは、その要所に船着き場や湊があったことを示し、当時はそれを「津」と呼んでいました。1374 年（応安 7）の「海夫注文」には、現利根川から霞ヶ浦・北浦に存在した「津」として、「野じりの津」「飯沼くわうやの津」などの記載があります。

銚子沖で黒潮と親潮が交わる太平洋もまた、人やモノを銚子へ運ぶ重要な役割を担っていました。江戸時代、黒潮は鰯を運び、鰯が紀州をはじめ関西からの旅網の漁師たちを銚子沖に誘いました。漁師たちはしだいに銚子に住みつき、外川をはじめ、飯貝根、長崎、名洗と漁場を開き、銚子漁業の礎を築き、現在、日本有数の漁業の町として発展しています。

また、黒潮との関わりを示す銚子らしい文化財として栗島台遺跡から出土した「ヤシの実容器」があります。黒潮にのって運ばれた「ヤシの実」を浜辺で拾い、漆を塗って、容器にした縄文人の知恵には驚くものがあります。

東京湾に注いでいた利根川が、現在のように銚子で太平洋へ注ぐ流路となったのは、江戸を利根川の水害から守り、新田開発を推進し、水運を開いて東北と関東の交通輸送ルートを確保するためといわれています。

1594 年（文禄 3）の会の川の締切りから 60 年もの歳月を経て、1654 年（承応 3）、利根川は銚子で太平洋に注ぎ、我が国最大の流域面積を誇る利根川が誕生しました。さらに、1665 年（寛文 5）に関宿から赤堀川に通じる逆川が改修され、利根水運は直接関宿を経て、江戸と結ばれるようになり、利根川流域には、年貢米輸送のための河岸が設けられました。

銚子が大きく発展し、江戸時代末頃に江戸、神奈川、水戸に次ぐ大都市に発展した要因の一つが、利根川が銚子で太平洋に注ぐ流路に変更されたことです。東北地方からの廻米を運ぶ東廻海運の湊であり、江戸へ荷を運ぶ積替基地となった銚子湊は、飯沼、新生、荒野、今宮、松本、本城、長塚、松岸の 8 ケ村に渡り、その中心を担っていたのは、飯沼から今宮の 4 ケ村で、特に荒野村は東北地

方の米を扱う御穀宿や一般商荷を扱う「気仙問屋」が建ち並び、醤油醸造関連施設もありました。荒野村は明治以降に郡役所などの行政機関や金融機関が集まるとともに汽船の荷物取扱所が置かれ、銚子の中心地となったのです。

飯沼村には銚子陣屋が置かれ、また田中玄蕃をはじめとする豪商も居住していました。飯沼観音の北東にある和田船溜は、利根川の波浪が強い時の船の停泊地並びに利根川水運の河岸として、近世以来重要な役割を果たしました。本城河岸は東北から入航する大型船の避難泊地、長塚河岸は高瀬船の停泊地となり、河岸の周辺には商業機能が生まれ、町場が形成され、今もその町並みの面影は残っています。

銚子市の西部地区にも利根水運の河岸として賑わっていた高田河岸・野尻河岸・小船木河岸がありました。この地域は、1374年（応安7）の「海夫注文」に「のじりの津」という記載があり、古くから「津」としての機能を有し、中世、中島城を居城として海上氏がこの地を治めていた際、網による漁が行われ、1560年（永禄3）には野尻の宿商人中に対して船木・野尻宿に塩荷を下ろすことが命じられています。中世期からの飯岡や九十九里方面との関係のほか、房総の外海を経由して、江戸へ至る舟運ルートの航海が容易ではなかったため、野尻河岸などでは米の輸送だけでなく、干鰯や麦粕などの輸送も行っていました。

この地域の有力な商人として、戦国期から領主海上氏に抱えられた宮内家（高田町）と滑川家（野尻町）、江戸後期からの宮城家（高田町）などが挙げられます。宮内家は、中世から近世に至るまで廻船を中心とした流通業を核として、旧飯岡町（現：旭市）など九十九里方面からの塩荷を扱うなどの当地域一帯の経済活動に大きな影響を与えた商人です。江戸時代に入ると、滑川家は御城米運送問屋としての地位を築き、椿領や銚子領を中心とした城米運送を幕府から任されていました。この3つの河岸では、魚肥などを中心に澱粉や醤油などが新たな輸送品として加わり、昭和初期まで水運業は盛んに行われました。

水運は、物資輸送だけではなく、旅人を運ぶ乗合船や貸切遊覧船も生まれました。木下河岸（印西市）から出港する木下茶船は東国三社詣の参拝の遊覧船として人気を博し、三社詣と銚子磯めぐりコースは4～5泊の船旅であり、水運を利用し、多くの文人・学者・芸人が押し寄せ、学問や文芸に興味を持つ人々が増加しました。

明治期に入り、利根水運による廻米は輸送されなくなりましたが、河川交通は存続し、物資や人々の往来を助け続けました。1881年（明治14）、銚子汽船会社が設立され、蒸気船「銚子丸」が銚子から木下まで就航し、年々利用頻度が高まっていたが、1897年（明治30）年、総武鉄道が東京と銚子を結び、1933年（昭和8）には利根川沿いでも佐原―松岸駅間の鉄道が開通したことで、水運利用は減少していきました。

「てうしみち」と呼ばれた「銚子道」は、利根川に沿った信仰の道でもありました。鎌倉時代、坂東三十三観音霊場が成立し、飯沼観音は第二十七番札所となり、近世中期以降は多数の一般庶民の信仰の対象となりました。飯沼観音までの道程を示す石柱の道標が、森戸町、高田町、長塚町に

あります。これは、1783 年（天明 3）から 1784 年（天明 4）頃に眞永が建立したもので、「飯沼観世音江〇里」と刻まれ飯沼観音までの里数を示しています。

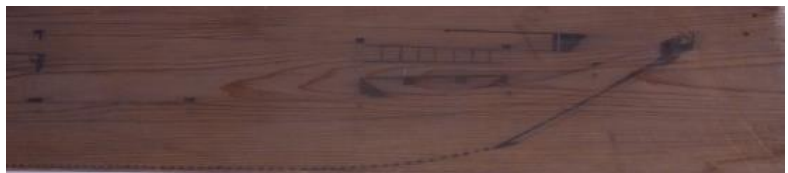
また、商いの道として「多古銚子街道（銚子街道）」があります。この道を使って、1695 年（元禄 8）に徳川光圀一行が多古を出発して、太田村（旭市）に一泊し、翌日野尻村滑川家で一泊して、その翌日野尻河岸から土浦に向かったと伝わっています。太田村やその近隣の成田村、網戸村には、^{そうきぐん} 匝瑳郡内や九十九里沿岸の村々から米や干鰯などの魚肥などの荷が集積され、それが野尻河岸等を経由し、江戸へ運ばれ、街道筋には「てうし道」と刻まれた道標が残っています。

「銚子湊と利根水運のものがたり」を伝える銚子資産

流通に関係する建造物：滑川家住宅主屋及び長屋門（国登録有形文化財）・磯角商店主屋（国登録有形文化財）・宮城家住宅
 流通に関係する古文書：滑川家文書・宮内家文書・宮城家文書
 水運と大地の成り立ち：銚子の地形・海流（親潮と黒潮）・気候・利根川
 流通に関係する信仰：大杉神社・白幡神社・水神宮
 航行に関係する資料：高瀬船関係資料・鑑札関係資料・船大工関係資料
 輸送に関連する資料：引き込み線架橋跡・旧貨物線敷跡（道路）・旧新生貨物駅跡（中央みどり公園）
 交通に関係する歴史的建造物：犬吠埼灯台（国登録有形文化財）・旧犬吠埼霧信号所霧笛舎（国登録有形文化財）・レンガ造りの高架橋
 交易や交流に関する資料：銚子産石材（チャート・古銅輝石安山岩・銚子石）
 粟島台遺跡出土遺物・椎柴小学校遺跡出土遺物
 白幡神社の石造物・道標・辻切り
 その他：昔の地名・運河計画・滑川



磯角商店主屋



高瀬船板図面



釈迦涅槃図（円福寺）



飯沼観音への道標



辻切り（小浜町）



仙台藩の御用穀（鑑札）



【守りたい・伝えたい価値】

○銚子湊の繁栄を伝える銚子資産

「商港・銚子湊」は、利根川の東遷により東北等からの物資を江戸へ運ぶための結節地として繁栄しました。そのため、現在の飯沼町から新生町周辺は政治や経済の中心地として発展しましたが、第二次世界大戦の際、3度の空襲を受け、市街地は壊滅し、当時の面影を残す銚子資産は多くありません。戦禍を逃れ、今なお残る銚子資産が町の価値を支えており、大切に継承していく必要があります。

○利根水運の繁栄を語る銚子資産

現在の野尻町や高田町は、中世から続く商人の町の中心的な役割を担ってきました。河岸問屋を営んできた旧宅には古文書をはじめとする地域の歴史を知る大切な資料が残っています。水運から陸上交通へと輸送手段が変化したことにより、歴史は大きく変化しましたが、今なお、その繁栄を伝える町並みや歴史的な資料が残り、「ものがたり」を語る上では重要な地域です。

・利根川沿岸に形成された河岸集落の町並み

利根川河口の地形の複雑さがもたらす特徴により、利根川沿岸の町にはそれぞれの特異性を持った河岸場が形成され、総合的に一つの湊を形成したといわれています。また、各町には町場が形成され、今も街道筋には歴史的建造物が残り、当時の町並みを知ることができます。

○陸の道「銚子街道」に関連する銚子資産

中世より飯岡方面からの物資を利根川沿いの津へ運ぶ「多古銚子街道」と、利根川沿いに飯沼観音方面へ続く「銚子道」が代表的な街道です。街道筋には、飯沼観音や常世田薬師へ導く道標が残り、商人たちの産業ルートだけではなく、信仰の道として利用されていたこともわかります。

【守り・伝えるための課題】

○商港から漁港へ、船から自動車へ 都市景観の変化

銚子湊は銚子漁港へ、利根水運から鉄道、そして自動車へ、輸送手段の変化が本市の歴史の流れを変えていきました。変化に伴う都市景観の変遷と空襲被害により、過去の歴史文化を伝える銚子資産が少ない中、目の前の風景や今ある銚子資産を活かすことで、歴史文化の大切さを伝えていく必要があります。

○商業都市の歴史と街道

香取の海の沿岸に位置した野尻町や高田町は、旧飯岡町方面からの塩荷をはじめとする物資が運ばれ、街道と水運をつなぐ「津」があり、大きな力を持つ商人が生まれ、商業都市として発展しました。その後、江戸時代に入り、利根川の東遷後も「河岸」として商業の中心地であった当地域の歴史を伝える旧宅の資料等の保存と活用を図っていくことが大切です。

【守り・伝えるための方針】

○河岸場の姿を伝える銚子資産の保存と管理

各河岸場の役割や特徴を表す町並みやそれを構成する歴史的建造物、文献資料、道標などを一体として保存していけるように、所有者に理解を求めていきます。高田、野尻、小船木の3河岸の調査は比較的進められていますが、それ以外の地域の調査に着手し、情報収集に努めていきます。

○関係する銚子資産の公開や景観復元による理解の向上

空襲による被害や生活環境の近代化に伴い、利根水運で繁栄した河岸場の景観を伝える銚子資産が減少しつつあります。しかし、個人所有の銚子資産の中には、重要なものが残されており、文化財の公開や、古文書や絵図などを活用した景観復元などにより、歴史を伝えていく活動に取り組んでいきます。

【守り・伝え・活かすための措置】

守り・伝え・活かすための必要な措置		財源	主体者	事業計画期間			
				短期 3年	中期 5年	長期 10年	
① 銚子湊や利根水運に関連する銚子資産の掘り起こし		事業番号：1・2					
・これまで実施してきた「銚子資産所在調査」を整理し、関連する「銚子資産」をリスト化するとともに、より多くの情報を得るために再調査を実施する。 ・把握した「銚子資産」の保存と活用の方法を整理する。保護措置を講じる必要がある「銚子資産」を選定し、「文化財基本調査」を実施する。		市費	銚子市				
② 利根川や街道沿い町並みの特徴の把握		事業番号：1・2					
・利根川や街道沿いの集落の把握と現状の確認、特徴を把握するための情報収集を行う。 ・把握した「銚子資産」の保存と活用の方法を整理する。保護措置を講じる必要がある「銚子資産」を選定し、「文化財基本調査」を実施する。		市費	銚子市				
③ 個人所有の銚子資産の把握		事業番号：1・2					
・個人所有の「銚子資産」の調査状況を整理し、現在の保存状況を確認します。 ・整理した「銚子資産」の中から保護措置を講じる必要がある「銚子資産」を選定し、「文化財基本調査」を実施する。		市費	銚子市				
④ 景観復元の推進		事業番号：1・4・5・7・8・24～26					
・古写真や絵はがき、古地図など昔の漁業集落や水産業の歴史文化を伝える資料を収集する。 ・収集した資料をVR等の技術に活用することで、景観復元を行いながら、歴史文化を継承していくプログラムを作る。 ・地域の歴史文化を語り合う場を作り、情報を収集していく。		市費 文化庁補助金 民間団体助成金 地方創生推進交付金	銚子市 協議会				

※事業番号は、関連する銚子市全体の措置の事業番号

銚子・ものがたり 6 : 銚子人気質「てんでんしのぎ」のものがたり

銚子の河口は、「阿波の鳴門か、銚子の川口、伊良湖渡合が恐ろしや」と言われるほどの日本三大海難所のひとつでした。銚子の地名は、利根川河口の形状が酒器の「お銚子」のように狭いことに由来しているという説があり、河口が狭く、北東方向を向いていること、北東方向から吹く強風が三角波を起こすこと、そして水面下に多数の岩礁があるなどが理由で非常に危険な場所であったことが広く知られていました。銚子の海岸線沿いには、地質時代の硬い岩石が露呈していることが、この岬の地を生み出した要因でもあります。この硬い岩石も航行する船にとっては危険なものとなりました。

1614年（慶長19）の海難事故で多くの犠牲者が出た際、千人塚（川口町）を建てて、犠牲者を供養しました。1816年（文化13）徳本上人による法要が営まれ、「南無阿弥陀仏」の名号塔が建立されて、現在も毎年一回、慰霊と供養のため「川施餓鬼法要」が行われています。

銚子には、「銚子の川口 てんでんしのぎ」という言葉があり、その意味は「銚子の川口では、周りの船が転覆しそうになっても手を出さな。自分の船は自分で守れ」、つまり「自分の身や命は自分で守れ」ということです。

また、黒生周辺の海域にも無数の岩礁があり、1868年（慶応4）榎本武揚が率いる幕府の軍艦8隻が函館に向かう中、黒生沖で暴風雨にあい美加保丸が遭難し、13人の犠牲者が出ました。その後も、1891年（明治24）の石崎丸、1910年（明治43）の「2月遭難」などの海難事故が多く発生しています。2月遭難で奇跡的に助かった乗組員たちは、日頃から信仰していた和田不動堂（和田浪切不動）（川口町）に絵馬を奉納し、生涯参拝を怠らなかったと伝えられています。

このような度重なる海難事故も一つの要因として、濱口吉兵衛（ヒゲタ醤油）は、漁港整備を決意し、衆議院議員となり、国や県へ働きかけ、1925年（大正14）から漁港整備事業に取り組み始めました。銚子漁港は河口を利用した漁港となるため、治水上の問題と漁船の遭難防止の問題を調和させながら計画を進める必要があり、工事着工までの間、多くの紆余曲折を経ながら、平成13（2001）年度までの長い月日をかけ、銚子漁港は現在の姿に整備され、海難事故も減少しました。

2011年（平成23）3月11日、東日本大震災の地震と津波は、私たちに大きな衝撃を与えました。銚子でも津波が発生し、建物などに被害はみられたものの、人的な被害は免れました。三方を水域に囲まれている銚子では、海は私たちに多くの恵みをもたらし、それを活かし、支えられて暮らしていますが、時に災いにも向き合ってきました。

1677年（延宝5）の延宝地震の津波は君ヶ浜から高神村まで到達し、その高さは約17m（遡上高は最大20m）であったと推定されています。また、1614年（慶長19）の津波は、出漁中の船が遭難し、1,000人以上が溺死したと伝えられています。また、1102年（康和4）、高神の高見の浦が大津波の被害を受けた際、海神の怒りを鎮めるために行われた祭事が銚子大神幸祭の始まりで、現在まで約900年続いています。この神事は、東大社（東庄町）、豊玉姫神社（香取市）、雷神社（旭市）の三社が銚子の外川浜へ渡御したことが起源で、現在は20年に一度執り行われています。

銚子沖（犬吠埼）は、沿岸を航行する船舶にとって変針点となり、船舶航行の要所となっています。そのため、西洋式の灯台「犬吠埼灯台」が1872年（明治5）着工、1874年（明治7）11月15日に初点灯し、この建設に尽力したのは、お雇い外国人であるリチャード・ヘンリー・ブラントンです。国産レンガを使った貴重な建造物で、今でも現役の航路標識であり、参観灯台としても活躍しています。また、ここには濃霧等で灯台の光が遠方まで届かない天候時に「音」で海上航行する船舶に灯台の位置を伝える「犬吠埼霧信号所」、通称「霧笛舎」がありました。かまぼこ型の屋根の鉄造の建物は、1910年（明治43）竣工、2006年（平成18）に用途廃止となりましたが、6月～8月にかけて濃霧が多く発生する銚子沖では、非常に重要な施設でした。

1908年（明治41）に通信省が日本で最初の無線電信局を作ったのも銚子で、銚子半島は位置的にも申し分なく、1960年（昭和35）から1972年（昭和47）には世界一の無線局となり、全世界の海上通信の要となり、日本の近代化を支える西洋の技術を活用した海を守る施設が銚子に整備されたのです。

第二次世界大戦の末期、銚子は米軍の爆撃機B29が関東各地へ向かうための飛行経路に位置していました。銚子防空監視隊が犬吠などに設置した監視硝で昼夜を問わず敵機を監視し、発見時には東部軍司令部へ報告しました。1945年（昭和20）2月、下志津陸軍飛行学校銚子分教場（春日町から上野町）が攻撃され、この後、2度の空襲を受けました。同年3月の新生町や興野町を中心とする市街地への空襲では、火災が発生し、多くの建物を焼失させ、同年7月の空襲では市街地は壊滅的な被害を受けました。この時、焼失を免れた公正會館（現銚子市中央地区コミュニティセンター）が病院として利用され、約200名もの負傷者の治療が行われたと伝えられています。

銚子ジオパークでは、2009年（平成21）の東日本大震災後に発足した防災まちおこし研究会と連携して、「銚子・水とともに生きる - 太平洋・利根川がもたらした恩恵と災害 - 」をテーマにダークツーリズムとしての活動の仕組みを整備し、大地の成り立ちを学び、自然災害からの減災につなげるための学習を提供しています。

「銚子人気質「てんでんしのぎ」のものがたり」を伝える銚子資産

災いをもたらす大地の成り立ちに関する資料：利根川河口の地形や地質・海食崖の地形や地質・

海流・気候

自然の災いに関する資料：渡海神社・名洗不動・飯沼観音・犬吠埼灯台（国登録有形文化財）・旧犬吠埼霧信号所霧笛舎（国登録有形文化財）・一ノ島灯台・美加保丸関係資料・千人塚・川施餓鬼・供養塔・銚子大神幸祭・神逢塚・御浜下り・御潮汲み神事・下座手踊り（宮原）・絵馬（和田不動・名洗不動）・水準原標石（土木遺産）

空襲に関係する資料：飯沼観音大仏・犬吠埼灯台レンズ・砲台場跡と台場・翔天の碑・防空壕跡・震洋特別攻撃隊飯沼基地幹部及び隊員官舎・震洋特別攻撃隊飯沼基地洞窟跡

病に関係する信仰：濱口梧陵紀徳碑・関寛斎

崖の侵食に関係する資料：屏風ヶ浦（国名勝及び天然記念物）・通蓮洞・三崎区有文書・名洗不動境内石碑

災害に関係する人物：濱口儀兵衛（10代梧洞）・徳富蘇峰・徳本上人・お雇い外国人（ブラントン・リンド）・国木田独歩

その他：銚子ジオパーク・ダークツーリズム・防災まちおこし研究会・犬吠埼ブラントン会・銚子リンド研究会・「稲むらの火」防災教育プロジェクト



とんび岩と美加保丸遭難碑



絵馬



銚子大神幸祭（小畑関所）



御浜下り（桜井町）



濱口吉兵衛銅像

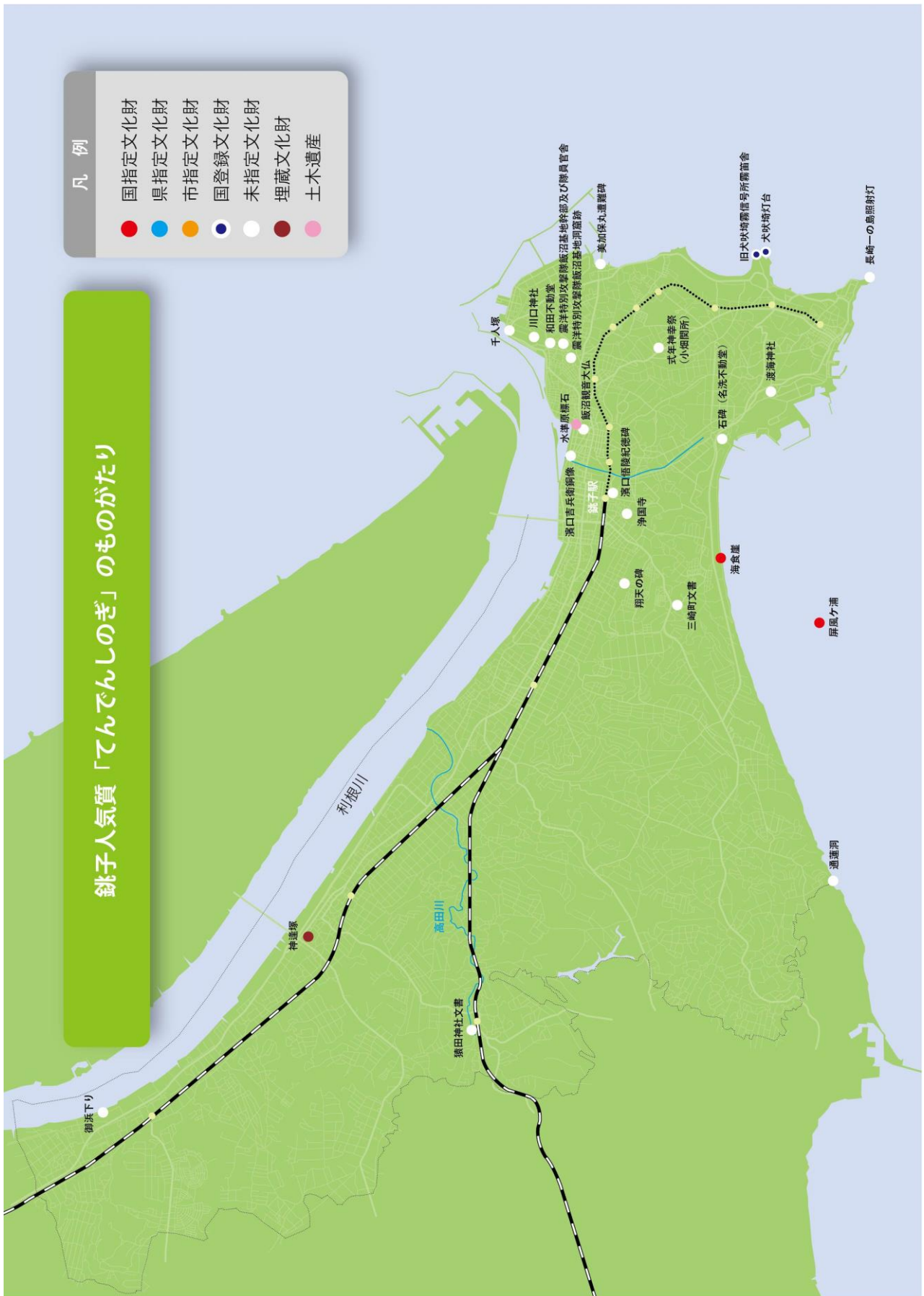


千人塚『海難漁民慰霊塔』



利根川河口の地形

「銚子人気質「てんでんしのぎ」のものがたり」を伝える代表的な銚子資産の分布



【守りたい・伝えたい価値】

○災害を伝える銚子資産

「岬」の町であることの「恩恵」をこれまでクローズアップしてきましたが、津波被害、海の遭難、空襲など「災い」という「負の遺産」も数多く残されています。災害の歴史を伝える銚子資産から、私たちは命を守る、減災の知恵を受け継いでいくことが大切です。

・災害の記録の整理

過去の災害の歴史を知ることが、これからの未来に起こるであろう災害への対策を学ぶことができるため、地域住民とともに災害の記録を整理しながら、減災、防災意識を高めていきます。

・祈りの継承

地域で執り行われている「まつり」は、その土地で暮らす人々と深い関りがある中で生まれ、継続して行われてきました。「まつり」の様式の継承だけでなく、「祭事」の由来や精神を継承していくことが重要で、地域で語り継いでいきます。

○災害をつなげる取組

市内には、「稲むらの火」を題材として活動する「防災教育プロジェクト」、太平洋や利根川がもたらした恩恵と災害を伝える「ダークツーリズム」活動を展開する「防災まちおこし研究会」、大地の成り立ちと人々の関りから災害についてガイドする「銚子ジオパーク」活動があり、これらの団体が本市の「負の遺産」である自然災害などを活かした取り組みを推進しています。

【守り・伝えるための課題】

○記録や記憶の伝承

災害や戦争被害などの辛い記録や記憶を受け継いでいくためにも、現状の把握と再整理、調査の継続を行いつつ、地域で共有できる方法を検討していく必要があります。

○祭事の継承

生活様式や社会活動が変化する中で、各地域に伝わる「まつり」の継承が難しくなっています。

市内には、20年に一度行われる「銚子大神幸祭」のように数十年に一度行われる祭事もあり、一年毎に行われる祭事以上に、その継承が厳しい状況にあります。

【守り・伝えるための方針】

○多角的な視点に基づく銚子資産の把握

「恩恵」と「災害」は表裏一帯でもあり、「ものがたり」を伝える銚子資産は他の「ものがたり」とも関連があります。それらを伝える銚子資産を把握する際、多角的な視点による把握に努めていきます。

○信仰や祭事の継承への支援

信仰や祭事の現状と課題を把握しつつ、関係する資料を発掘し、価値の再評価を行うとともに新たな価値の創出を目指し、継承が難しい信仰等は記録保存を進めていきます。

○防災教育活動との連携

銚子ジオパーク推進協議会と防災まちおこし研究会は、自然災害や戦災の跡地など先人たちの教訓を学ぶことを目的とした「ダークツーリズム」を実施しています。また、「稲村の火」を題材に防

第8章 「銚子・ものがたり」による銚子資産の総合的な保存と活用

災教育活動を行っている「防災教育プロジェクト」が既に活動を展開しています。今後、これらの活動と連携を図りつつ、活動の充実が図れるような支援の在り方を検討していきます。

【守り・伝え・活かすための措置】

守り・伝え・活かすための必要な措置	財源	主体者	事業計画期間		
			短期 3年	中期 5年	長期 10年
①災害の歴史を伝える銚子資産の掘り起こし	事業番号：1・2				
・これまで実施してきた「銚子資産所在調査」を整理し、関連する「銚子資産」をリスト化するとともに、より多くの情報を得るために再調査を実施する。 ・把握した「銚子資産」の保存と活用の方法を整理する。保護措置を講じる必要がある「銚子資産」を選定し、「文化財基本調査」を実施する。 市費 銚子市					
②信仰や祭事の継承への支援	事業番号：6・11・16				
・信仰や祭事に関連する資料を収集するとともに、地域に伝わる祭事の形式などを記録しながら、次世代へ継承していく。 ・記録保存が必要な「銚子資産」をリスト化し、事業を実施する。 市費 文化庁補助金 民間団体助成金 銚子市協議会					
③多様な主体者との連携	事業番号：16・22				
・本市の歴史文化が礎となった「銚子ブランド」の向上を目指し、関係団体との連携体制を作る。 市費 銚子市協議会					

※事業番号は、関連する銚子市全体の措置の事業番号

銚子・ものがたり 7：中世の領主海上氏と都市の始まりのものがたり

銚子市内には、190 か所の遺跡があります。発掘調査により確認された銚子で最も古い時代の遺跡は、約 28,000 年前の旧石器時代の三崎 3 丁目遺跡（三崎町三丁目）で、旧石器人の台所跡と考えられている焼けた礫（石）がいくつも固まって検出された「礫群」が数ヶ所確認されています。ここでは、チャートなど銚子の海岸沿いで確保できる石材を使った石器や黒曜石のように銚子では確保できない石材を利用した石器などが出土しています。三崎 3 丁目遺跡を代表する旧石器時代から栗島台遺跡や余山貝塚などの縄文時代以降、この土地で人々が生活していた痕跡が数多く残されています。

律令期以前の銚子を含めた香取郡、匝瑳郡などの下総東部地域は、「下海上国造」の領域で、香取の海沿岸に本地域を統治していた首長たちの墓と推定できる大規模な古墳が造営されています。銚子でも市内最大の前方後円墳である野尻 1 号墳（野尻町）をはじめ弁財天古墳（船木町）などが利根川を見下ろす下総台地上に造られています。この時期の集落跡は、野尻遺跡（野尻町）や大宮戸遺跡（春日町）、椎柴小学校遺跡（小船木町）などがあり、下総台地と香取の海沿岸に平行して形成された浜堤や微高地上に遺跡は確認されています。大宮戸遺跡は古墳時代前期の土師器で赤彩が施されている埴などが住居跡からまとまって出土し、椎柴小学校からも古墳時代前期に属する遺構が検出しています。また、椎柴小学校遺跡からは、北関東地方から運ばれてきた「緑色凝灰岩」や東海地方の土器などが出土していることから、香取の海を活用した活発な交易活動を伺い知ることができます。

律令制に基づく国の統治が始まると、銚子市と旭市は「海上郡」に属し、この郡内には「三前」「三宅」「船木」の 3 つの郷が置かれ、この 3 つの地名は、今も町名として残っています。「三前郷」は先にあげた春日町の大宮戸遺跡や大宮神社周辺と推定され、「三宅郷」は海上国造の統治下で「屯倉」が置かれていたことに由来する郷名であるとされ、現在の三宅町周辺という説があります。「船木（舟木）郷」は船木部が置かれ、造船用材木を扱った地域であると考えられています。香取の海は蝦夷征討のための交通の要所で、中央政権にとっての要の地でもあり、香取の海を眼下に望む当地域は国を統治するために大切な役割を担う地域でした。

銚子の市域は中世の下総国海上郡三崎庄（海上庄）の領域で、三崎庄の平安時代後期の在地領主は、平常兼の子で海上与一を名乗った平常衡と子の常幹、孫の常春でした。常春は片岡常春を称し、『延慶本平家物語』では源義経軍に属し壇ノ浦で平家が滅亡したとき海中に沈んだ神璽が浮かんだところを取り上げたとし、『義経記』では常陸国の鹿島行方の荒磯に生まれたとして、海に慣れた武将として物語られています。

しかし常春は、1185 年（文治 1）に常陸国の佐竹義政に同心し謀反を企てた疑いにより所領を没収され、三崎庄は千葉常胤に与えられます。その後、三崎庄内の船木郷（舟木郷）と横根郷は常春に返付されましたが、1189 年（文治 5）に再び没収され、これ以後、三崎庄の全域は千葉常胤が地頭として支配することになりました。

千葉常胤は鎌倉幕府の成立とともに下総国の守護として大勢力を築き、その6人の子が千葉氏の本家のほか相馬・武石・大須賀・国分・東の各家に分かれ下総国内に割拠しました。「千葉六党」と呼ばれるこの6家のうち、海上庄の地頭職を譲られたのが東庄を本拠地に東氏の祖となった胤頼です。そして、胤頼の孫の胤方・胤久・胤有が海上庄を分領され海上氏を称しました。

海上氏の惣領（本家）は、胤方から子の胤景へ、さらに胤泰・師胤・公胤・憲胤へと継承され、ほかに胤方の子盛胤が本庄を、行胤が船木を称し、盛胤の子のなかに辺田・高上・松本・馬場・飯沼を名字とした者がいて、庶子家が庄内の各地に分かれてそれぞれの土地を支配しました。室町時代になると、鎌倉公方の奉公衆となる者があらわれ、また御所奉行を務める者もいて鎌倉府での活動が確認できます。小田原北条氏の勢力が下総国に伸びた戦国時代末には千葉氏本家の力が衰えていきますが、海上氏による当地域の支配は維持され、豊臣秀吉によって北条氏が倒された1590年（天正18）に至るまでその支配は継続しました。

中島城跡（中島町）は、利根川の河口から西北西約10kmの標高40m前後の下総台地の突端部にあります。北西から延びる台地に北と西から小支谷が入り込み、先端部がくびれ、西方に開析された長い谷奥から流れて沖積地を蛇行し、「香取の海」に流入する高田川が防御、交通、灌漑等の役割を持つという、領域支配の拠点として非常に適した場所に立地しています。

城の規模は、東西約500m、南北約400m、主郭部は空堀で区画されている複郭構成で、周囲に腰曲輪があります。台地上は現在、ほとんどが畑ですが、畑の造成などで土塁が崩されたり、空堀が埋められたりしています。現在の城郭遺構については、規模の大きさと折り歪みを持つ空堀が造られている点から戦国時代後半の築城と考えられています。等覚寺（岡野台町）所有の「金銅経筒」

（県指定有形文化財 1985年（昭和60）3月8日）に見られる「施主平胤方」銘や地域に伝わる伝承などにより鎌倉時代から居館があったと推定されていますが、まだまだ不明な点が多い遺跡です。中島城周辺には、海上氏ゆかりの古寺社や石造物などが数多く残されており、この一帯が海上氏の本拠地と考えられています。

中島城域に関係する現在の集落は、城内のほとんどを占める中島町と東裾部に位置する三門町、海上氏関連の寺院が残る岡野台町や正明寺町です。地域に残る字名をみると「要害」や「中城」「古屋」など城郭関係の地名が残り、屋号にも三門町の「中城」など城に関係するものが見られます。また、城の周囲を高田川から取水した用水路である逆川が巡り、道端には信仰の歴史を伝える石造物が残っています。

海上氏の居城と考えられている中島城の周辺には、現在は廃されてしまったものも含めると多くの寺社が存在し、海上氏との関係を示す様々な資料が遺されました。等覚寺は、1390年（明德1）に中島城主山城守（理慶・公胤か）が願主となり、領内のはやり病の平癒を祈願して創建されたと伝えられています。また、現在等覚寺に安置されている「木造薬師如来立像」2軀と「木造菩薩立像」1軀（いずれも県指定有形文化財 1989年（平成1）3月10日）は、本来は引接寺（現在廃寺）の仏像であったと推測されています。さらに1944年（昭和19）に岡野台町大字高見倉で発見された「如法経、奉為非母禅尼也、建長四年壬子（1252年）二月五日、施主平胤方」の銘がある「金

銅経筒」も等覚寺に伝えられています。千葉氏一族の守護神であった妙見神^{みょうけんしん}についても、堀内神社（岡野台町）に 1335 年（建武 2）の墨書銘が記されている「木造妙見菩薩立像」が祀られています。堀内神社は中島城の海上氏が妙見神を祀った神社であり、棟札^{むなふだ}によると 1541 年（天文 10）に海上持秀らにより再興されています。

中島城から少し離れている常世田山常燈寺^{とこよださんじょうとうじ}（常世田町）の「木造薬師如来坐像」（重文指定 1959 年（昭和 34）6 月 27 日）の胎内に記された 1243 年（仁治 4）の墨書銘によると、同像の修理は阿闍梨栄慶が大勧進となり、海上胤方の妻が 2 貫文寄進するなど、多くの奉加衆^{ほうかしゅう}の寄進により行われたものでした。常燈寺の 1526 年（大永 6）の棟札には「大檀那海上殿平持秀（（花押））」の墨書があり、海上氏が戦国時代まで常燈寺を崇敬し保護していたことが知られています。

飯沼観音は円福寺の本堂で、養老年間（717～724）に海中より十一面観音像が引き上げられ、草庵に安置したのが始まりです。この飯沼観音が坂東三十三観音霊場第二十七番札所として、海上一族の庇護^{ひご}を受けて発展した歴史を知る手がかりが、円福寺所有の中世文書にあります。1416 年（応永 23）千葉兼胤が円福寺に参詣、1436 年（永享 8）に千葉胤直が大蔵卿律師の円福寺寺領相続を安堵したなどの記録が残っています。また、1446 年（文安 3）に「大檀那海上殿 平胤栄、平胤義、隆近、平胤春、龍女」の銘がある銅製多宝塔^{どうせいたほうとう}が寄進されるなど、海上氏代々の篤い信仰が続きました。養老年間から始まった飯沼観音への観音信仰により、多くの参詣者を銚子へ招き、その門前が銚子の市街地形成の礎となっていたのです。

「中世の領主海上氏と都市の始まりのものがたり」を伝える銚子資産

中島城やその他の城郭跡や居館跡：中島城跡・飯沼城跡・本城跡・三宅城跡・忍館跡・諸持砦跡・

宮原館跡・高上館跡

海上氏に関する資料：円福寺中世文書・宮内家文書・浄国寺所有称讃寺関係資料

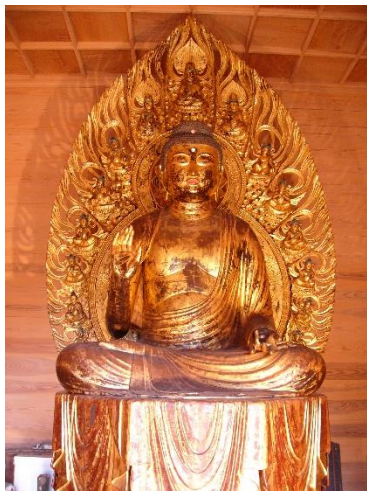
海上氏の信仰に係る資料：飯沼観音・円福寺・海上八幡宮・常灯寺・堀内神社・猿田神社

木造薬師如来坐像・木造妙見菩薩立像・板碑・金銅経筒

古代から中世までの暮らしに係る資料：三崎3丁目遺跡・栗島台遺跡・余山貝塚・佐野原遺跡・

野尻遺跡・野尻古墳群・大宮戸遺跡・大久保遺跡

その他：大般若経・三門の字名と屋号・逆川・高田川



木造薬師如来坐像（常燈寺）



板碑
(康応二年閏三月十六日銘)

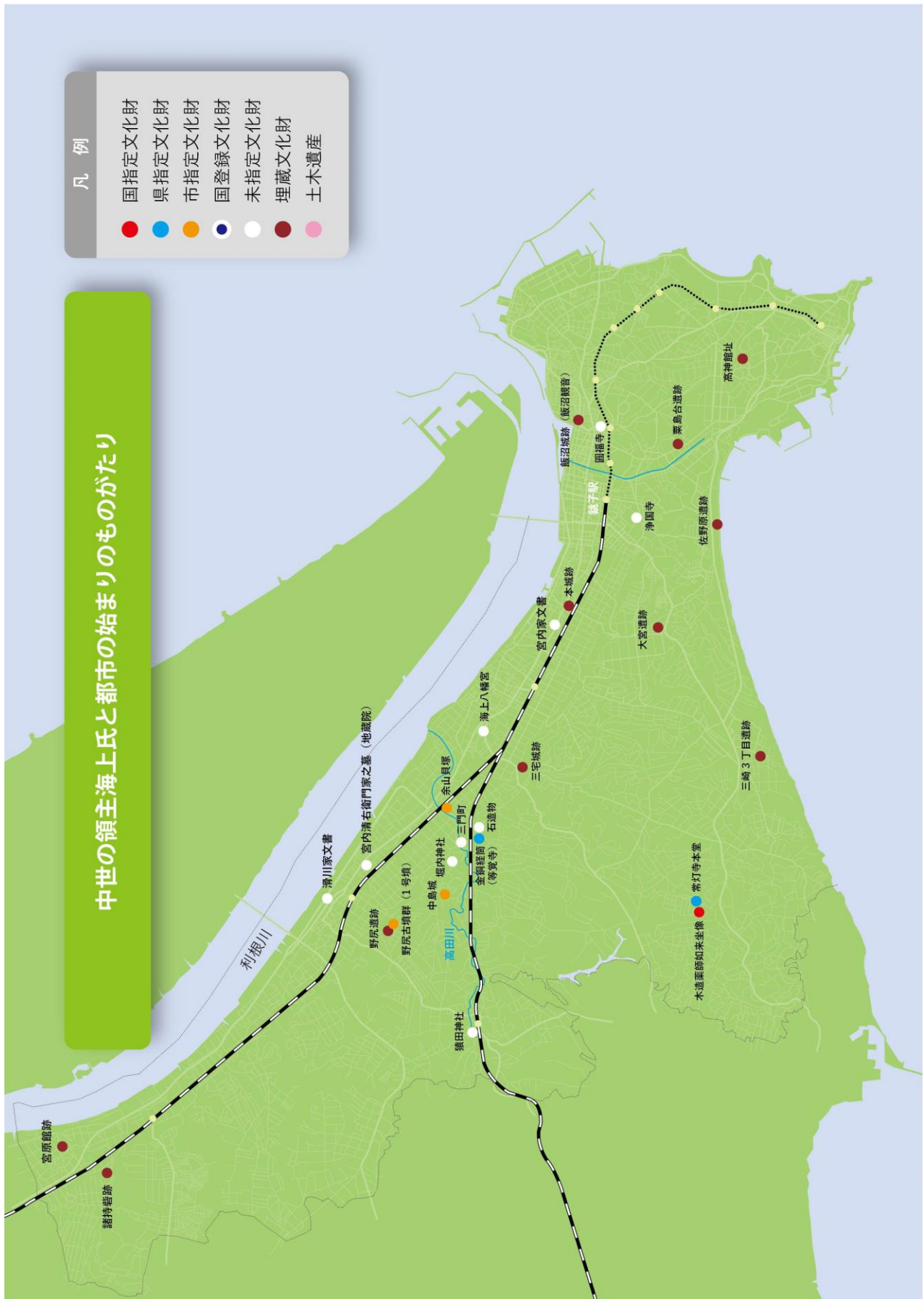


宮内清右衛門家之墓



飯沼観音（円福寺本堂）

「中世の領主海上氏と都市の始まりのものがたり」を伝える代表的な銚子資産の分布



【守りたい・伝えたい価値】

○中世の歴史を伝える銚子資産

「中島城」という遺跡名を知っている市民はいますが、どこにあり、どのような遺跡かということを理解している人は多くありません。これまで、「中世」をテーマとした講演会などの事業を行ったことはほとんどなく、江戸時代の歴史文化に触れる機会と比較した場合、中世の銚子資産に触れる機会は少ないといえます。

・歴史文化の継続性と重層性

江戸時代の発展の歴史を知っている市民が多くいる中で、中世に関する情報はあまり知られていません。利根川の東遷という一大土木工事があって銚子が大きく発展したことは確かですが、それまでのこの土地での暮らしの中で積み重ねてきた歴史文化があつての「江戸時代の発展」です。それ故、中世に関連する銚子資産に光をあて、「ものがたり」を活かして伝えていきます。

・地形を利用して築造された中島城

中島城は1967年（昭和42）から市の指定史跡として保護しています。城は東西約500m、南北約400mと非常に大規模な城跡で、台地の先端部に入り込む支谷を区切って地形を上手に利用して築造されています。一部、畑の造成や土採取による土地の改変も認められるが、比較的良好に遺存しています。これらの遺構とともに土地の字名、地域に伝わる伝承を整理し、中島城の価値を伝えていきます。

・中世都市としての景観復元

海上氏が自らの子息にこの地を分領し、統治させた名残が地名に残っており、本市の都市形成の原型といえます。そのため、中島城を単体として保存と活用するのではなく、周辺地域に残る寺社や関連する銚子資産の価値を把握し、周辺環境を含めて中世都市としての景観を復元し、周知活動を行っていきます。

【守り・伝えるための課題】

○中島城の保存・活用

現在、市指定史跡として保護している「中島城」には2基の文化財説明板を設置し、遺跡を周知しています。しかし、説明板の設置だけでは価値を伝え、理解を深めることは難しく、より分かりやすく伝える事業展開が重要となり、中島城のこれまでの調査内容を整理し、指定範囲の見直しや保存方法、活用の在り方を再検討する時期にきています。

○関連する銚子資産の情報発信

把握している「銚子資産」を再整理し、海上氏や中島城をはじめとする「ものがたり」を伝える銚子資産を選定し、分かりやすくその価値を伝えることで、興味関心を高めていく必要があります。また、「所在調査」を継続的に実施し、「ものがたり」の内容を深めていくことも重要です。

○取り組みの連携

「ものがたり」を伝える銚子資産の所有者に対して、価値の発信や公開への協力を求めていく必要があります。また、中島城が所在する三門町や中島町などの住民が主体となって組織された「共生する会」等の関連団体と目的を共有し、連携を深めていくことも大切です。

【守り・伝えるための方針】

○中島城の総合的な調査と保護

「中島城」に関連する調査研究の成果を再整理し、必要に応じて城跡の遺構の確認調査等を行い、指定範囲の見直しを含めた中島城の保存や史跡散策に必要な整備を行うなど地域住民とともに保護の在り方を検討していきます。

○「ものがたり」を通じての歴史的価値の継承

中世に関わる資料が少なく、明らかにされていない部分も多くあります。また、中世の歴史を伝える銚子資産を個々に取り上げてきたことも、周知を高められなかった原因の一つであると考えています。「ものがたり」を伝える「銚子資産」の関連性を整理し、分かりやすく伝える工夫をし、理解を深めていきます。

○地域活動との連携

「常世田薬師奉賛会」は、常灯寺を守る活動を古くから続けており、平成22年度から平成28年度までの間に本堂の解体修理に取り組んできました。また、「美化の会」の活動を発端に、高田川沿いに「共生する会」と「白石ダムに集う大地の会」（以下、「大地の会」という。）が発足し、互いに連携を深めながら活動を展開しています。これらの団体の活動を支援するとともに、文化財保護担当課も目指す目標を共有し、協働で保護活用に取り組んでいきます。

【守り・伝え・活かすための措置】

守り・伝え・活かすための必要な措置		財源	主体者	事業計画期間			
				短期 3年	中期 5年	長期 10年	
①中世の歴史を伝える銚子資産の掘り起こし		事業番号：1・2					
・これまで実施してきた「銚子資産所在調査」を整理し、関連する「銚子資産」をリスト化するとともに、より多くの情報を得るために再調査を実施する。		市費	銚子市				
・把握した「銚子資産」の保存と活用方法を整理する。保護措置を講じる必要がある「銚子資産」を選定し、「文化財基本調査」を実施する。							
②中島城の保存と活用		事業番号：11・13・24～26					
市指定史跡「中島城」の保存と活用 ・中島城のこれまでの調査成果を把握し、今後の保存と活用の在り方を検討します。		市費 文化庁補助金 県費補助金	銚子市 団体				
市指定史跡「中島城」の史跡整備 ・中島城のこれまでの調査成果を把握し、史跡整備を進め、余山貝塚と一帯の学びの場として必要な整備を推進する。		市費 文化庁補助金 県費補助金 地域創生交付金	銚子市 団体				
③「ものがたり」を活用した歴史的価値の継承		事業番号：4・5・7・24～26					
・「ものがたり」に関連する「銚子資産」の公開や情報発信を行う。		市費 文化庁補助金 県費補助金 地域創生交付金	銚子市 協議会				
・「ものがたり」を活用して、地域の景観復元を行い、分かりやすく内容を伝える仕掛け（例 VR等）を作る。		市費 文化庁補助金 地方創生推進交付金 民間団体助成金	銚子市 協議会				
④多様な主体者との連携		事業番号：16・22					
・「ものがたり」を伝える「銚子資産」に関連した市民団体が複数あり、目指す目的や将来像を共有し、地域や関係団体との連携体制を作る。		市費	銚子市 協議会				

※事業番号は、関連する銚子市全体の措置の事業番号

銚子・ものがたり 8：北総四都市江戸紀行

江戸を感じる北総の町並み ～港町の銚子～

「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並みー佐倉・成田・佐原・銚子：百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並み群ー」は、2016年（平成28）4月に日本遺産（シリアル型）に認定されました。

北総地域は、江戸幕府の本拠地百万都市江戸に隣接し、穀倉地帯の関東平野と豊かな漁場の太平洋を背景に、利根川の東遷により発達した水運と江戸に続く街道を利用して江戸に東国の物産を供給し、江戸の暮らしや経済を支えました。そして人々の往来が北総地域に江戸文化を運び、城下町の佐倉、成田山の門前町の成田、利根水運の河岸であり香取神宮の参道の起点である佐原、漁業と東北地方と江戸をつなぐ商港、そして磯めぐりの観光客で賑わう銚子という4つの特色ある都市が發展しました。この四都市は、江戸庶民も訪れた4つの町並みや風景が残り、今も東京近郊にありながら、江戸情緒を感じることができます。

利根川の東遷によりその河口となった銚子は、天然の漁場を臨む好地にあり、江戸の人々に魚を供給する漁場として發展しました。江戸への魚の運搬は、利根川と「鮮魚街道」と呼ばれる街道により鮮度を失わないように迅速に行われました。一方、水揚げされた大漁のイワシのほとんどが鮮魚としての供給ではなく、干鰯等の魚肥へと加工するために利用されました。浜辺には広大な干鰯場が広がり、それらは利根水運により江戸へ運ばれ、その後、関西方面で栽培されていた綿花の肥料として重宝されていました。

また、利根水運は物資の輸送だけではなく、江戸からの人や文化を運んできました。江戸庶民の間で香取・鹿島・息栖の東国三社詣が盛行すると、そのオプションツアーとして「銚子磯めぐり」が人気を博していきました。海岸周りの奇岩奇礁や寺社をめぐる旅は、江戸からの文人墨客の間でも好まれ、その風景が多く作品に題材として取り上げられました。

さらに、1616年（元和2）に銚子で醤油醸造が始まり、江戸の食味にあうように改良を重ね、現在の濃口醤油が開発されたことで、江戸での需要が急速に高まり、江戸前料理を支えたといわれています。

銚子の漁港は、江戸時代初期に紀州から移住した崎山治郎衛門が築港した外川港から始まりました。漁港に面した斜面に碁盤目状の街区を作り、紀州から多くの漁民を呼び寄せ、銚子漁業の礎となりました。この崎山が作った街区は、今も残り、当時の面影を伝えています。そして、利根川河口付近には、銚子の観音様として参拝者が多かった飯沼観音・円福寺、そして漁師の守り神である川口神社をはじめ江戸から続く歴史文化を伝える銚子資産が残っています。

この日本遺産「北総四都市江戸紀行」のストーリーは、①江戸に続く街道と利根水運の発達をもたらした繁栄、②百万都市江戸を支え、江戸とのかかわりで發展した都市の歴史と文化、③江戸情緒の残る代表的な町並みの3つの小テーマに基づきまとめられ、地域計画に盛り込んだ他の7つの

「ものがたり」と密接な関係を持っています。

北総の四都市は、それぞれの役割を持って百万都市江戸を支えた歴史文化が残り、同一地域にタイプの違う4種類の町並みが残るという稀有な地域でもあり、歴史文化を活かした広域連携の取り組みを進めています。

「北総四都市江戸紀行 江戸を感じる北総の町並み ～港町の銚子～」を伝える
銚子資産

港町・銚子を伝える資料：銚子外川の町並み・大杉神社・銚子縮・銚子ちぢみ伝統工芸館・銚子大漁節
川口神社・萬祝・萬祝式大漁旗・小澤染工場・額賀屋染工場・
旧西廣家住宅（治郎吉）主屋、缶詰工場、北倉、南倉、煉瓦塀・磯角商店主屋
外川ミニ郷土資料館・ペ粕及び干鰯製造関係資料・漁業の道具

漁業の信仰関係資料：川口神社・和田不動堂・漕出・大潮まつり・奉納絵馬・千人塚

醤油醸造業を伝える資料：銚子の醤油醸造・玄蕃井戸・ヤマサ資料館・ヒゲタ史料館・山十商店
小倉醤油

磯めぐりを伝える資料：銚子磯めぐり・妙見様（妙福寺）・飯沼観音・犬吠埼の白亜紀浅海堆積物
千騎ヶ岩・犬岩・屏風ヶ浦・浄国寺・紙本淡彩銚子名所絵図

その他：石上酒造（米倉・麴室・仕込蔵（醗蔵）・貯蔵蔵・文庫蔵）

※日本遺産「北総四都市江戸紀行 江戸を感じる北総の町並み ～港町の銚子～」を伝える銚子資産は、日本遺産で認定されている「ストーリー（ものがたり）」を伝える構成文化財のみ掲載しています。また、文化財等の名称は、日本遺産の構成文化財として申請時に使用した表記としています。



外川ミニ郷土資料館



大漁旗（額賀屋染工場）



大潮まつり（川口神社）



和田不動堂



山十商店（ひしお製造）



銚子磯めぐり（犬岩）



【守りたい・伝えたい価値】

○江戸に続く街道と利根水運の発達をもたらした繁栄

江戸時代、江戸に続く街道と利根水運が、他の北総の都市とともに銚子に繁栄をもたらしました。銚子には、関西方面から漁業や醤油醸造の新しい技術が持ち込まれ産業が興り、東北から米をはじめとする物資が集まり、利根川が物流の大動脈となり江戸へ運ばれ、銚子は水産業及び商工業の都市として大いに発展しました。

・産業の歴史を物語る銚子資産

紀州をはじめ関西方面からもたらされた新しい産業の技術により興った、江戸に始まる産業の歴史そのものが大切な銚子資産です。歴史を伝える古文書や産業に関連する道具類、施設建設の変遷の記録、産業を支えた人物など多種多様な銚子資産があります。

・産業を支える銚子の風土と大地の成り立ち

江戸時代、関東平野の最東端「とっばずれ」に位置する銚子とその風土に、利根川の東遷という一大土木工事が連動し、目覚ましい発展を遂げました。江戸時代に興った産業は、銚子の大地の成り立ちと風土にも深く関わりを持っています。その関りを「日本遺産」や「銚子ジオパーク」の活動を通して、分かりやすく後世へ伝えていきます。

○百万都市江戸を支え、江戸との関りで発展した都市の歴史と文化

約400年前に始まった銚子での醤油作りは、すし、そばなどの江戸の食文化を支えた「地回り醤油」の発祥の地といわれています。また、江戸からの人気の観光地でもあり、風光明媚な景色を求めて多くの文化人が訪れ、江戸文化が銚子でも花開きました。銚子の風土や地の利を活かして産業が興り、大消費地江戸を意識して改良等が行われ、それが受入れられて発展してきました。それを支えたのは、江戸の政界人や文化人と交流のある本市の財界人たちでした。

・歴史文化を伝える語り部

江戸時代から続く産業の担い手や地域住民の中には、関連する歴史文化に関する情報を豊富に持ち、魅力を伝えることができる「人財」がいます。地域を地域住民が語り、魅力を発信していくことは、歴史文化を活かす活動の中で最も大切な要素の一つです。

○江戸情緒が残る代表的な町並み

崎山治郎衛門が外川で港を構築し、銚子石を使って街区を作り、多くの漁師を紀州から呼び寄せ、町づくりを行い、「外川千軒大繁盛」といわれるほどの賑わいを生み出した漁業の歴史を伝える街区が残っています。

【守り・伝えるための課題】

○失われた銚子資産の補完

産業の近代化や空襲による中心市街地の壊滅的な被害を受けたことにより、江戸から続いてきた発展を伝える銚子資産の中には失われたものもあります。ともに日本遺産「北総四都市江戸紀行」を推進している他市と比較しても、視覚的なインパクトがなく、江戸を感じる空間が非常に少ないともいわれています。このような中で、江戸時代の歴史を伝えるための銚子資産の更なる掘り起こしや見せ方の工夫を検討していく必要があります。

○歴史的な町並みの保全

狭い道路や銚子石で造成された街区は現在の建築基準法による厳しい規制があったことで外川の町並みは残ってきたとも言えます。現在、外川で暮らす人々の高齢化に伴う空き家の増加、建物の老朽化による取り壊しが増えつつあります。銚子漁業の発祥の地の歴史文化を伝えるこの外川の町並みをどのように守り伝えていくか、早急に方向性を考えていく必要があります。

○語り部の継承

江戸の歴史を伝えることができる「語り部」の知識を記録し、後世に継承していくために必要な措置を講じていく必要があります。

【守り伝えるための方針】

○江戸時代の賑わいを伝える見せ方の検討

「江戸時代の銚子資産」などの枠組みにこだわらず、幅広い視点で「ものがたり」を伝えることができる銚子資産を掘り起こしつつ、単体として、そして面としての活用方法を検討し、わかりやすい「ものがたり」の伝え方を整えていきます。

○「ものがたり」の活用

「北総四都市江戸紀行」は、他の7つの「ものがたり」と密接に関係しています。各「ものがたり」の方針に沿って、関連する銚子資産の保存と活用に取り組んでいきます。

○歴史文化観光の推進

日本遺産ブランドと「ものがたり」を活用し、歴史文化観光を推進していくために必要な銚子資産の磨き上げ、まち歩きルートの設定、ガイド養成などの事業は地域住民を巻き込みながら取り組んでいきます。

○広域連携の取組

日本遺産やジオパーク活動は、市単独で実施している活動ではなく、広域連携の事業でもあります。広域連携のネットワークを活かし、歴史文化に基づく銚子ブランドの向上を目指していきます。

【守り・伝え・活かすための措置】

守り・伝え・活かすための必要な措置	財源	主体者	事業計画期間		
			短期 3年	中期 5年	長期 10年
①日本遺産のストーリーを伝える銚子資産の掘り起こし	事業番号：1・2				
・これまで実施してきた「銚子資産所在調査」を整理し、関連する「銚子資産」をリスト化するとともに、より多くの情報を得るために再調査を実施する。 ・把握した「銚子資産」の保存と活用の方法を整理する。保護措置を講じる必要がある「銚子資産」を選定し、「文化財基本調査」を実施する。	市費	銚子市			
②江戸時代の賑わいを伝える見せ方の検討	事業番号：24～29				
・古写真や絵はがき、古地図など昔の漁業集落や水産業の歴史文化を伝える資料を収集する。 ・収集した資料をVR等の技術に活用することで、景観復元を行いながら、歴史文化を継承していくプログラムを作る。 ・地域の歴史文化を語り合う場を作り、情報を収集していく。 ・日本遺産ブランドを活かした歴史文化観光を推進するために必要な事業に取り組む。 (まち歩きルートの構築・文化財説明板・誘導標設置等)	市費 文化庁補助金 地方創生推進交付金 民間団体助成金	銚子市協議会			
③多様な主体者との連携	事業番号：22・23				
・「日本遺産」の広域連携を活かして、歴史文化を礎とした「銚子ブランド」の向上を目指し、関係事業者との連携体制を作る。	市費 文化庁補助金 地方創生推進交付金 民間団体助成金	銚子市協議会			

※事業番号は、関連する銚子市全体の措置の事業番号